「朝鮮学報」第195輯 別刷 平 成 17 年 4 月 刊 2005

日本語を母語とする 韓国語学習者の誤用分析

――해서形と하고形を中心に――

孫 禎 慧

日本語を母語とする 韓国語学習者の誤用分析

――해서形と하고形を中心に――

孫 禎 慧

【要旨】본고는 일본어를 모어로 하는 한국어 학습자가 -(아/어)서(이 하, 〈해서〉로 표시한다)와 -고(이하, 〈하고〉로 표시한다)를 어떠한 의미로 사용하며, 어떤 유형의 오용을 범하는지, 그리고 어떤 습득 순서를 보이는가를 고찰한 것이다

그 결과, 학습자들은 〈해서〉를 주로 "원인, 이유"의 의미로, 〈하고〉는 주로 "병렬"의 의미로 인식하고 있음을 알 수 있었다.

또한, 본고는 〈해서〉와 〈하고〉의 오용을 학습자들이 사용한 접속형(부동사형)의 존재 여부에 따라 "존재하지 않는 접속형을 만든 오용" (*보어서,*봤어서)과 "존재하는 접속형에 의한 오용" (봐서→보고)으로 분류하였다. 전자는 용언의 활용 단계에서 오용이 생긴 "어형변화의 오용" (*보어서)과 〈해서〉와는 공기할 수 없는 "-었-"을 배열시킨 "형태소 배열의오용" (*봤어서)으로 하위분류 된다. 후자는 다른 접속형 대신에 〈해서〉와〈하고〉가 사용된 "타접속형 대용" (봐서→보고)과 접속형이 아닌 다른 문법형식 대신에 이들이 사용된 "비접속형 대용" (봐서→본지)으로 분류되며, "타접속형 대용"은 〈해서〉 또는 〈하고〉가 가지고 있지 않은 의미를나타내기 위해 이들이 사용된 "기능확대 오용" (봐서→보고 "병렬")과〈해서〉와〈하고〉가 둘 다 가지고 있는 의미지만, 잘못된 접속형을 선택한 "형태선택 오용" (봐서→보고 "선행")으로 나눌 수 있다.

〈해서〉와〈하고〉의 습득 순서를 살펴 보면, 이들의 형태 형성에 관한 규칙이 이들의 의미, 용법보다 먼저 습득되며, 의미 중에서도 "원인, 이유"의 〈해서〉와 "병렬"의 〈하고〉가 다른 의미보다 먼저 습득될 수 있음을 확인하였다.

(2) 朝 鮮 学 報(第195輯)

目 次

- 1 はじめに
 - 1.1. 本稿の目的
 - 1.2. 先行研究
- 1.3. 先行研究の考察
- 2 研究の対象と方法
 - 2.1. 学習者の設定
 - 2.2. 分析資料の設定
 - 2.3. 研究方法
 - 2.4. 本稿で用いる用語及び記号 7. 해서と하고の習得順序
- 3 해서と하고の意味分類
 - 3.1. 해서に関する先行研究
 - 32. 하고に関する先行研究
 - 3.3. 教科書における해서と하고の意 8. 終わりに 味

- 4. 作文に現れた全ての接続形の分布
- 5 해서と하고の意味別の使用傾向
- 5.1. 해서の意味別の使用傾向
- 5.2. 하고の意味別の使用傾向
- 6. 해서と하고の誤用
 - 6.1. 本稿における誤用の類型
 - 6.2. 存在しない接続形を作った誤用
 - 6.3. 存在する接続形による誤用

 - 7.1. 誤用の類型と習得順序との相関
- 7.2. 해서と하고の意味別の習得順序

1. はじめに

1.1. 本稿の目的

日本語のいわゆる接続助詞である「て」は、韓国語では次のように主 に-아서あるいは-고に訳しうる:

- (1) CD を買って友達にプレゼントした。 CD 를 사서 친구에게 선물했다.
- (2) テレビを消して部屋に戻った。 텔레비전을 끄고 방으로 돌아갔다.

つまり、日本語の「して」形は韓国語では少なくとも해서形と하고形 という2つの接続形に対応しているわけである。よって、日本語を母語 とする韓国語学習者には、この해서と하고の誤用が頻出することが予想 される。

本稿は、日本語を母語とする韓国語学習者(以下、学習者と記する) がいかなる意味を表すために헤서と하고を用いるのか、またいかなる意 味を表す際に誤用が多く現れるのかを明らかにし、その誤用の類型化を はかることを目的とする。その際、既存の学習者の誤用分析では触れる ことができなかった、해서と하고の習得順序についても重点を置き、論 じる。また、本稿では해서と하고の誤用例のみならず、正用例も含めた 全ての用例を研究の対象とし、かつ、해서と하고の形態だけに基づいて 分析を行うのではなく、 헤州と하고が持っている意味も視野に入れて考 察を行う。

1.2. 先行研究

学習者の誤用を分析した研究は、①学習者の母語別に行った研究と、② 学習者の母語と関わりなく、様々な母語を持つ学習者を同時に対象とし て行った研究という、2つのタイプに分けることができる。

まず、学習者の母語別に行った研究のうち、日本語を母語とする学習 者を対象としたものには崔友瑛(1997)と최정화(1999)がある。

崔友瑛(1997)は、韓国のサムソン人力開発院で韓国語を学んでいる 日本語母語話者48名の作文を収集し、そこに現れた誤用を「文法上の誤 用」と「語彙上の誤用」に分けて分析している。「文法上の誤用」におい ては語末語尾に関するものが最も多く現れ、次に助詞、形態上の誤用、 時制,不規則動詞,話法,数の概念の順で多く現れたとする。「語彙上の 誤用」においては音韻と綴りの混同によるものが全体の34.2%を占めて おり、最も高い出現率を示したとする。

최정화(1999)は韓国外国語大学と延世大学、高麗大学、国際教育振 興院で5ヵ月以上韓国語を学んでいる日本語母語話者110名を対象とし、 アンケート調査を行った。その結果、補助詞-(이) 나と-도との混用、指 示冠形詞ユとオとの混用、連結語尾―――・ロとース만との混用、冠形形語尾 の誤用、時制と相の誤用などが現れたと述べている。

一方、日本語母語話者のみを対象にした研究ではないが、学習者の作文から「連結語尾」のみの誤用を抽出し、分析した研究には召 る位 (2002) がある。そこでは日本語圏、中国語圏、英語圏、ロシア語圏、その他の言語圏の学習者の作文から「連結語尾」の誤用のみを抽出し、その類型を大きく「抜け落ち」、「代置」、「添加」に分類している。また、全ての言語圏の学習者において「代置」による誤用数が最も多く現れており、これは類似した意味を持つ「連結語尾」の用法を、学習者が明白に理解していないために生じたものであると報告している。また、2番目に多く現れた「抜け落ち」は、学習者のコミュニケーションにおける戦略の一種で、学習者がその「連結語尾」の使い方を明白に知らず、その形態を初めから省略してしまったために生じたものと記している。

1.3. 先行研究の考察

上述した先行研究を始めとして、多様な学習背景を持つ学習者による 誤用分析が、韓国で盛んに行われている。しかし、これまでの誤用分析 の研究にはいくつの問題点が見られる。

1つ目は、研究対象となる学習者の選定に関する問題である。学習者の持つ様々な変数、例えば彼らの母語や年齢、学習時間などが異なる結果をもたらす要因になりうるにもかかわらず、従来の誤用分析では異なる変数を持つ学習者を同時に研究対象として扱っていたのである。

2つ目は、誤用の比率に関する問題である。崔友瑛(1997)は、誤用の比率を現れた全誤用数に対して算出している。そのため、属格の誤用が1.3%、主格の誤用が3.1%という数値で現れ、日本語を母語とする学習者は、属格より主格の方を正しく用いることができないように思えてしまう。ところが、甘是型(1997)によると、韓国語テクストには一般的に属格(12.67%)より主格(14.51%)がより多く現れているので、学習者の作文においても主格の誤用数が当然多くなることが予測される。ゆえに、現れた総誤用数に対して各文法形式の誤用率を算出するのではなく、その文法形式の総出現数に対して誤用率を算出すべきである。

3つ目は、誤用の記述に関する問題点である。崔友瑛(1997)は「文

法上の誤用」を文法範疇で大きく分類しているが、その項目の実際の文 法形式(補助詞:-도, -은/는…など)の誤用数は提示していない。そ のために実際、学習者がどのような文法形式を使い分けることができな いのかが詳しく分からない。

さらに、崔友瑛(1997) と 최 정화(1999) は、一つの文法形式が複数 の意味を表しうるということを全く考慮していない。そのため、その文 法形式のどの意味を表す場合に学習者が正しく用い、どの意味を表す場 合に誤用を多く犯すのかが把握しがたい。

一方、 김중섭 (2002) は、 同じ해서でも「順次」と「理由」に分ける など、学習者の作文に現れた接続形の誤用をそれらの意味別に分類し、 説明しようとした点で高く評価できる。しかし、その結果を数値化して いない点が惜しまれる。

4つ目は、誤用の原因の分類に関する問題点である。学習者の誤用を 分析した多くの研究では、学習者の誤用の原因を「言語間の誤用 (interlingual error)」や「言語内の誤用 (intralingual error)」などに大きく 分けて説明している。しかし、ある1つの誤用が「言語内の誤用」であ るか、「言語間の誤用」であるかを区別するのは容易ではなく、研究者の 主観に支配される恐れがある:

(3) 집으로(→에) 갔더니 할머니가 와 있었습니다 (作例) 家に帰ったらお祖母さんが来ていました。

例えば、例(3)は韓国語における助詞の使い分けが区別できずに生じた 「言語内の誤用」とも見做しうる反面、日本語の「-に」という一つの形 態が韓国語では-에게、-에、-(으)로などいくつかの助詞に対応するの で、「言語間の誤用」とも見做しうるのである。

本稿では、先行研究における以上のような問題点を改善すべく、類似 の学習背景を持つ学習者から自由作文を収集し、そこに現れた해서と하 立の全ての用例を形態的な側面から意味的な側面まで精密に分析。数量 化して学習者の해서と하고の使用における特徴を究明していく。

2. 研究の対象と方法

2.1. 学習者の設定

本稿は、学習者の条件に関する変数をできる限り減らすため、様々な 母語や学習背景を持つ学習者を無作為に選択するのではなく、特定の大 学で韓国語を学んでおり、母語や年齢など類似の条件を持つ学習者89名 を対象とする。なおかつ、そのうち、いくつか異なる変数を持つ学習者 がいれば、類似した条件別にグループ化して考察を試みる:

区分	学習機関	学習形態	平均年齢	平均学習期間	(9) 週平均学習時間
I	A大学	専攻言語	19.8才	約1年3ヶ月	10.5~11.7時間
Ш	A大学	専攻言語	19.5才	約1年6ヶ月	10.3~11.8時間
Ш	B大学	第2外国語	19.5才	約1年3ヶ月	1.6~ 3.7時間

【表1】学習者の内訳

グループ I と II は資料の収集期間は異なるが,同一の A 大学で韓国語を専攻している日本語母語話者であり,グループ III は B 大学で第 2 外国語として韓国語を履修している日本語母語話者である。表 1 から分かるように,A 大学の学習者や B 大学の学習者の平均年齢はほぼ同年代であり,韓国語を学んだ平均学習期間もほとんど似通っている。しかし,A 大学の学習者は専攻として韓国語を学習しているために週平均学習時間が最長約12時間である反面,B 大学の学習者は第 2 外国語として韓国語の授業を履修しているために週平均学習時間が最長でも約 4 時間であり,大きな差異が見られる。

以下の考察にあたって、こうしたA大学とB大学の学習者の学習時間の差異も考慮し、彼らの作文から得られた結果の相違点や類似点にも注目して論じる。

2.2. 分析資料の設定

本稿は上述の学習者から収集した自由作文を資料とし、分析を行った。 学習者によって書かれた資料を収集する方法には自由作文以外に、翻訳法が考えうる。しかし、翻訳法は、学習者に与えた資料を彼らの母語 や目標言語に訳させる方法であるため、対象とする文法形式が学習者自 ら産出したものとは言いがたい。なお、文全体の意味関係とは関わりな く、学習者が持っている目標言語と母語間の形態的な対応関係に基づき 翻訳する恐れもあり、より多くの誤用をもたらす可能性がある。よって. 本稿は以下のような期間に収集された自由作文を分析の資料とする:

区分	学習機関	学習形態	人数	収集期間 (収集回数)	作文数	総文節数
I	A 大学	専攻言語	16名	2002年5月21日~7月16日 (隔週1回提出:総5回)	80#Ai	12,836
11	A 大学	専攻甘語	26名	2003年6月19日~7月24日 (隔週1回提出:総3回)	78編	13,511
ш	B 大学	第2外同語	47字1	2003年6月26日(1回)	47編	6,394

【表2】分析資料の内訳

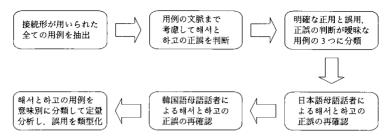
グループ [の場合、全32名のうち、5 回全て作文を提出した学習者は 18名である。しかし、そのうち2名は6年以上外国で暮らした経験があ るため、今回のデータの対象からは除いた。また、グループⅡは全34名 のうち、3回全て作文を提出した学習者は26名であり、グループⅢは全 60名のうち、47名の学習者が作文を提出した。したがって、総作文数は 205編 総文節数は32.741単語である。

以下、グループⅠは「専攻語学習大学Ⅰ」、グループⅡは「専攻語学習 大学Ⅱ」、グループⅢは「第2外国語学習大学」と表示する。

2.3. 研究方法

本稿は次のような順序に従い、学習者の用いた해서と하고の特徴を考 察した:

- 1)接続形が用いられた全ての用例を抽出する 学習者から得られた作文の中から接続形が用いられた用例を全て抽出 し、各々の接続形の出現頻度と出現率を算出した。
- 2) 해서と하고が用いられた用例の正誤を文脈まで考慮して判断する 用例の正誤を判断するにあたっては、その判断範囲を文全体や文脈ま



【図1】本稿の誤用分析における研究順序

で拡大して考慮しなければならないという点に注意すべきである:

(4) 셋째 신문기자가 돼서 매스커뮤니케이션의 큰 힘을 써서 세상에 영 用言1 用言2

경옥 주고 싶었기 때문이다

3つ目、新聞記者になり、マスコミュニケーションの大きな力を 使って世界に影響を与えたかったからだ。

例(4)は「…耐서節…耐서節…主節」という構造を成している。用言2の 耐暑の正誤を判断する際にその判断範囲を主節との関係のみに限定する と、その用法は正用と判断することができる。しかし、用言1の해서節 まで含めて正誤を判断すると、 해서が一つの文に2つ用いられているた めか、非常に不自然な文となり、誤用と判断されるのである。

(5) 이번에는 홈스테이를 할 예정이어서 그 속에서 한국음식이나 한국 문화나 여러가지를 배웠으면 좋겠다고 생각합니다. 今度はホームステイをするつもりなので、その中で韓国料理や韓 国文化などいろいろなことを習えれば良いと思っています。

なお、例(5)の場合はその単独の文のみを見ると、해서が用いられた下 線部分を예정인데あるいは예정이니까のいずれにも直しうる。しかし、 以下のような作文の全体の文脈を考慮すれば、예정인데よりは예정이니

- (6) 하지만 올해 3월에 단기유학 때문에 한국에 갔습니다. 제가 있었던 하숙집은 아주 좋은 하숙이니까 매일 재미있었습니다. …… (中略) ……서는 한국에 대해서 아직도 잘 모르니까 몇번도 가서 잘 알게 되고 싶습니다. 이번에는 홈스테이를 할 예정이어서 그 속에서 한국음식이나 한국문화나 여러가지를 배웠으면 좋겠다고 생각합니다
- 3) 해서と하고の用例を①明確な正用, ②明確な誤用, ③正誤の判断が 曖昧な用例の3つに分類する

数多くの誤用分析の研究では、学習者の作文から得られた用例を単に 正用と誤用との二者択一で分類している。しかし、実際学習者が作り出 した文には正用とも誤用とも判断しがたい用例が存在する:

(7) 그 뮤지칼은 말할 것도 없이 영어로 상연됩다만 저는 그 때 미국에 <u>와서</u> (→①와서/②온 지) 1년 정도 밖에 걸리지 않았기 때문에 조금밖에 알아들을 수 있었습니다.

そのミュージカルは言うまでもなく英語で上映されましたが、私はその時アメリカに<u>来て</u>1年ほどしか経っていなかったので、少ししか聞き取れませんでした。

筆者の内省によると、例(7)は「와서」より「冬 A」を用いた方がより自然に感じられる。しかし、 와서を用いたとしてもそれが確実に誤用とは言いがたく、 明確な誤用と判断される用例との誤用の程度が異なるように思われる。そこで本稿は、例(7)のように筆者自らの正誤の判断にいささかでも逡巡を見る用例は、 他の韓国語母語話者にアンケート調査を依頼した。

一方、例(8)は学習者の用いた接続形の用法が正しいとは判断できるものの、実際学習者が意図した意味が明確でないため、正誤の判断を決め

にくい用例である:

(8) 일은 <u>힘들고</u> 가끔 손을 다친 것도 있지만 친구들이 많이 있고 재미있 습니다

仕事は<u>大変で</u>たまに手を怪我することもあるけれど,友達がたく さん居て面白いです。

学習者が「仕事は大変で、また、たまに手を怪我することもある」という意味で計立を用いたとすれば、例(8)は正用であるが、「仕事が大変なので、たまに手を怪我することもある」という意味を表そうとしたのならば、例(8)は誤用となるのである。本稿では、学習者が用いた接続形を優先して、これらの用例を正用と見做すことにする。

(9) 아주 널릴 때까지 <u>청소하지 않고</u> 그만큼 나의 방은 보통 정리하기 됩 니다

なお、学習者の作文には、例(9)のように学習者がその文を通じて表現 しようとする意味が正確に解釈しがたく、正誤の判断ができない用例も 見られる。本稿では、これらの用例は해서と하고の総出現頻度には含め るが、誤用数からは除外する。

4) 正誤の判断を日本語母語話者と共に再確認する

従来の誤用分析にあっては、正誤の判断を研究者自身の内省のみを頼りにしてなされていた。しかし、本稿は、より客観的に用例の正誤を判断するために、誤用と判断した用例と正誤が曖昧な用例を、韓国語が可能な日本語母語話者と共に日本語に訳し、再び正誤を確認した。

Corder (1981:22) は学習者の誤用を文字通りに訳すこと (a process of literal translation) により、学習者がその文で表そうとした意味が推測できるとしている。すなわち、学習者の誤用を彼らの母語に照らし合わせることによって学習者が意図した意味を把握することができ、その誤

用を適切な目標言語に直すことができるわけである。

- 5) 正誤が曖昧な用例を韓国語母語話者に再確認する 本稿は 正誤が曖昧な用例について 韓国語母語話者2名にアンケー ト調査をし、正誤の判断を再び検証した:
 - (10) 그래도 집이 좋다고 해서 주말에는 도쿄에 있는 우리 집에 들어가십 **니** 「作文に書かれた例〕 しかし、家が良いと言って週末には東京の家に帰ってきます。
 - (11) 그래도 집이【좋다고 하다】주말에는 도쿄에 있는 우리 집에 들어 가십니다. 〔アンケート調査用〕

アンケート調査は、例(10)のように用いられた해서の用言を例(11)のよう に基本形で韓国語母語話者2名に提示し、その用例が1つの文になるよ うに、可能な全ての接続形を用いて書き直すよう依頼した。このような 方法を用いたのは、学習者の書いた用例をそのまま韓国語母語話者に提 示すると、学習者が表そうとした意味さえ把握できれば、正用と判断す る恐れがあるためである。言い換えれば、学習者の書いた文の意味を把 握することにとらわれ、前件と後件の意味的な論理関係において해서あ るいは

引立が

適切に

用いられたのか

否かを

見落とす

可能性があるわけで ある。

一方、1つの用例に対して韓国語母語話者2名の回答が異なる場合が ある。例えば、例(1)に対して韓国語母語話者Aは【 】を「좋다고 하며」 と「좋다고 하면서」としたが、韓国語母語話者 B は「좋다고 해서」と書 き直した。つまり、Aの答によれば例(10)は誤用であるのに対し、Bの答 によれば例(10)は自然であり、正用となる。本稿では、このように正誤に 関する2人の韓国語母語話者の回答が異なる用例は、 해서と하고の総出 現頻度には含めるが、誤用数からは除外する。

また、学習者の作文から収集した해서と하고の用例には、学習者が意 図する意味を韓国語で表現するため、その用例の統辞的な構造を完全に

変えなければならない文がある:

(12) 한국 음식은 건강적이고 아주 몸에 좋다고 생각합니다 韓国料理は健康的で、とても体に良いと思います。

日本語母語話者は例(12)を日本語に訳した文を極自然な文であると述べ たのに反し、韓国語母語話者は、例(12)は不自然であり、次のように直す べきと指摘した:

- (12-1) 한국 음식은 아주 몸에 좋다고 생각합니다
- (12-2) 한국 음식은 건강에 아주 좋다고 생각합니다.

おそらく、このような例は日本語と韓国語の表現様相の違いにより生 じた問題であろう。しかし、このような用例は接続形の誤用とは別途の 問題であるため、出現頻度には含めるが、誤用数からは除外する。

このように、本稿では正誤の判断の客観性を高めるため、従来の研究 とは違って正誤の判断を3回にわたって行った。1回目は研究者による もの、2回目は日本語母語話者と一緒に行ったもの、3回目は韓国語母 語話者のアンケート調査によるものである。

- 6) 해서と하고の用例を意味別に分類して定量分析し、誤用の類型化を はかる
- 2) から5) までの段階を経て誤用と判断した用例と正用例を. 前件 と後件の意味関係によって分類して意味別の出現率と正用率、誤用率を 算出し、学習者の해서と하고の使用傾向及び誤用の類型を分析した。

ところで、誤用と判断した用例には異なる意味を表す2つ以上の接続 形に直しうるものがある:

(13) 그래서 상처나 건강에 조심해서 더 힘내야 돼요. それで怪我や健康に気をつけて、もっと頑張らなければなりませ λ_{\circ}

韓国語母語話者 A は例(3)を 조심하 中及び 조심하 면서に直したのに対し、韓国語母語話者 B は 조심하고に直した。例(3)を 조심하 中及び 조심하 면서に書き直すと、前件と後件が時間的に同時に行われるという同時性が感じられるが、 조심하고に書き直すと前件と後件との関連性が弱くなり、「怪我や健康に気を付けなければならないし、また、もっと頑張らないとならない」というように、単に前件と後件を並べるニュアンスが強くなる。本稿ではこのような用例を誤用と認め、誤用数に含めるが、一つの意味に分類することができないために意味別の誤用率を提示する際には「その他」の項目に含めて提示する。

学習者の誤用を分析するにおいていかなる手順と方法を用いたのか、 その研究方法を明確に提示した論考は今までない。そのため、以前の研 究から浮かび上がった結果の検証が難しく、なおかつ、対象の異なる研 究どうしを比較することがほとんど不可能であった。

様々な母語や学習背景を持つ学習者から十分な資料を収集するのは、 非常に難しい作業である。しかし、そうであるからこそ、誤用分析の研 究者はその研究方法を明示し、互いに共有することが極めて重要であり、 必要なことなのである。そうして初めて、より信頼できる学習者の一般 的な特徴が浮かび上がるだろう。

2.4. 本稿で用いる用語及び記号

また、学習者の誤用例は学習者が作文に書いた通りに提示する。 해서と か 立の用法が間違っている部分には下線を付し、()の中にそれを正しく修正したものを記入する。

例文の日本語訳は、学習者が書いたものではなく、筆者によるもので ある。

3. 해서と하고の意味分類

実際の考察に入る前に、従来の先行研究における해서と하고の意味記述や学習者が用いた教科書に記載されている해서と하고の説明を検討し、 本稿における해서と하고の意味を規定する。

3.1. 해서に関する先行研究

従来の先行研究で提示されている해서の意味を整理すると,表3のようになる:

部州の意味 前条件の因果関係を表す			先行研究		
胡서の意味	서정수 (1990)	남기심 (1994)	権在淑 (1994)	연세한국어사전 (1998)	이 온 경 (2000)
前後件の因果関係を表す	•	● (原因)	● (原因・理由)	•	● (原因)
前後件の順次性を表す	•	● (継起)	● (先行)	•	● (先行)
後件の時間的な限定を表す	•	● (時)	● (条件)	•	_
後件の手段、方法を表す	_	● (方法)	● (手段・方法)	•	
前件の持続を表す	-	_	● (様態)	•	-

【表3】 해서に関する先行研究

[●]は各先行研究で分類されている해서の意味を示す。

るか否かを拠り所にし、他の先行研究では「継起」あるいは「先行」の 意味に含めた用例を、「様態」に細分化して述べている。

3.2. 하고に関する先行研究

以下の表4は하고の意味に関する先行研究をまとめたものである:

			先行研究		
하 고の意味	서정수 (1 99 0)	남기심 (1 994)	鄭玄淑 (1996)	연세한국어사전 (1998)	이은경 (2000)
前後件の羅列を表す	•	●(空間羅列)	● (並列)	•	● (羅列)
前後件の順次性を表す	•	● (継起羅列)	● (先行)	•	_
前後件の同時性を表す	_	● (同時羅列)	● (同時)	•	_
前後件の因果関係を表す			● (原因・理由)	•	_
前件の持続を表す	_		● (様態)	•	_
後件の条件を表す		-	● (条件)	•	_
後件の手段、方法を表す		_		•	

【表4】 하고に関する先行研究

かユの意味に関して、先行研究では共通して、前件と後件を単に羅列 するものと、前件が終わってから後件が起こるものとに分類している。 なお、남기심(1994)と鄭玄淑(1996)、연세한국어사전(1988)は、하 고が前件と後件の同時性を表しうると述べており、鄭玄淑(1996)はこ の意味以外にも、権在淑(1994)における해서の意味分類を踏襲し、「原 因・理由」、「様態」、「条件」という意味を加えている。鄭玄淑(1996) におけるこのような分類は연세한국어사전(1988)においても同様である。

3.3. 教科書における해서と하고の意味

次に、学習者が使用した教科書に説明されている、해서と하고の意味 を詳しく見てみよう:

「専攻語学習大学」で使用している3つの教科書では해서の意味を「原 因」、「動作の先行」、「様態」の3つに分類して説明しており、「第2外国 語学習大学」で使用している教科書では「原因」と「動作の先行」とい

[●]は各先行研究で分類されている하고の意味を示す。

【表 5】教科書に掲載された해서と하고の意味

		專 攻語学習大学							
教科書	『至福の朝鮮語』	『朝鮮語の入門』	『これからの朝鮮語』						
해서	(第21課) III-A …なので [原因] …して [動作の先行] …して [機應] 「III-A」は 「…なので (…だ)」 … するので (…だ)」という原因とめったのに用いられる接続形 III-Aの 形をとる用言は形容用を在元を あることが多い、また、命令やもは できない、なお III-Aリーターという 形はない、動詞につくと、後続する。 をがきる。に先行する動作行われる とがらに先行する動作行われる。 がよいなが、「…して」と訳しうる。 (p. 215) III-A (副村) …して [動作の先行、原因、機態]	(第9課) III-서 原因,根拠,理由:様態 (動作の先行)をあらわします。形 容調のこの形はほとんど原因等の 意味でだけ用いられます。	(p. 205) 「~なので~だ」「~だから~だった」と、原因・理由を述べる場合には接続形皿-서を用いる。この皿-村は「~して」という動作の先面を表す用法もある。原因・理由の皿ーイは「III-서 コ래ュ」「III-서 コ래 会「付」の形でもよく使われる。深語訳すると「~なのでそうなのですよ」となるが、「~だからですよ」ほどの意。						
하고 :	(第13課) 1-丑 …して[ことがらの並列を表す接続形] 代表的な接続形の動きをも対象の表すしっていくつかの動きをもつが、指定国や存在調列して、いることを表す。一般に文の接が形のままで終わらさは、全なもつはるとであるが、その場合は一品をつけると丁寧な形に場る。 (第15課) 1-丑 …して[ことがらの並列や先行を表すとならの世別を表すはか、ことがらの並列を表すはか、ことがらのもます。(中、216) 1-ヱ …して[並列, 動作の先行, 様態]	(第2課) 文あるいは述語を対等の関係で結ぶ語尾は一元です。ただし肯定形と否定形を結ぶ時は一元ではなく一月が用いられます。 (第16課) 接続形1ーユ、川ー川、川中はともに日本語には「・・・・して」「・・・し」のように訳さされますが、1ーコと別ーロは2つの対あるいは2つの数を結び、川中は2つの変化なます。1ーコと別ーロは2つの地位2つの地位2つの地位2つの地位2で表記場合に役ます。1ーコと別ー中は近過去形と意思を対します。1ーコと別ーの地の作を結び、川中は近半の大変にがします。1ーコーロは動作の地がであらわし、1ーコと川中は動作の地がであった。1・コースと明中は地であるが、「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	《p. 130》「AはBするして方」「AはBだしてだ」「AはBだしてはDだ」「A にする」「AはBだしてはDだ」「A はBするしてはDだ」などのよう に二つの事柄を並列して述べると きには1-立という語尾を用いる。						
	第2外 第12課 (p. 73)	国語学習大学:『ことばの架け橋』							
해서	用言語幹+아서/어서/여서:~1 ポイント:語幹+아서/어서/여서	は連体用+서の形で覚えればよい。	原因・理由を表す日本語の「〜て」						
하고	ポイント: 語幹+の村/ 이서/ 여서は連体用+서の形で覚えればよい。原因・理由を表す日本語の「~て」に対しては、 아서/ 이서/ 여서を使うことが多い。 第16課 (p. 106) 用言語幹+고: ~てあって、~であり、~て・~し(並列、動作の先行) ポイント: 고と아서 (이서/ 여서) は、どちらも日本語の「~て」にあたる。この2つの形の使い方には、おおよそ以下のような傾向がある。 1) ことがらを並列的に述べる場合 2) 前のことがらが原と、理由で後ろのことがらが起きる場合 3) 前のことがらに続いて後ろのことがらが起きる場合 ただし、次の場合は中村(이서/ 여서)になることが多い。 ①前のことがらと後ろのことがらの主語が同じで、前のことがらに自動詞が使われている場合 ②前のことがらと後ろのことがらに他動詞が使われていて、その主語と目的語が同じ場合								

う2つの意味に分類して説明している。また、 하고の意味に関しては、 「専攻語学習大学」では「並列」、「先行」、「様態」の3つに分けて説明し ており、「第2外国語学習大学」では「並列」と「動作の先行」に分けて 説明している。

教科書における해서と하고の意味の記述は、3.1.と3.2.で検討した先 行研究のそれとほぼ同様である。教科書や先行研究では、「原因」あるい は「理由」となる해서を、前後件の因果関係という論理的な側面を基準 として説明しており、「動作の先行」を表す해서と하고は、前件が後件よ りも時間的に先に行われるという時間的な側面を基準として説明してい るのである。また、「様態」を表す해서と하고は時間的な側面、かつ前件 に後件の動作が行われる様子が表れているという描写的な側面を基準と しており、「並列」を表す하고は先行関係にこだわらず、前件と後件が単 に並んでいるという非時間的な側面を基準として説明している。

ところで、これらの先行研究のうち、実際に韓国語の言語資料から収 集した用例を基に해서と하고の意味や用法を網羅的に分析したものは、 権在淑(1994)と鄭玄淑(1996)に限られる。よって、本稿は主にこの 2つの論考での해서とお고の分類に従い、学習者の作文に現れた해서と 하고を意味別に分類する。鄭玄淑(1996)は権在淑(1994)に倣って하 立の意味や用法を考察しているため、学習者の作文に現れた해서と하고 の用例を比較し、分析するのに有益であろう。

この2つの論考で해서と하고の意味を見分ける基準とされている点を 表6に整理した:

4. 作文に現れた全ての接続形の分布

まず、学習者の作文に現れた接続形の出現頻度を検討する。

学習者の作文には32種類の接続形が見られた。その接続形の出現頻度 と出現率をグループ別に表すと表 7 の通りである:

上位の出現率を占めている接続形を各グループ別に表すとグラフ1の 通りである:

【表 6】権在淑(1994)による해서と鄭玄淑(1996)による하고の意味の判別基準

区分		意味の判別基準
	先行	(i)用言1が表す動作が、用言2の表す行為より時間的に先だっている。(例) 나중에 노파는 치자를 몇 개 가지고 와서 말했다.
	様態	 ①用言 I の動作がそこで終わってしまうのではなく、用言 2 の動作にまで結果が残っている、あるいは持続している。 ②凝問詞「어떤 식으로」や「어떻게」の答えになりうる。 ③ 「…砂 女司星」と答えうる。 〈例〉 그 허악해락진 꼬라지 해서 고향 가봤자 농사 짓긴 애저녁에 글렀어.
해서	原因・理由	①開題となる文が疑問詞「왜」、「어째서」の答えになりうる。 ②「하기 때문에」や「했기 때문에」という形と言い替えうる。 〈例〉서울 집에서 포도주 담그던 병 갖고는 어림도 없어서 숫제 큰 독을 묻고 술을 담갔으니까 실컷 마셔.
	手段・方法	(i)「어떤 싀으.足」や「어떻게」という疑問に答えうる。 ②しかし、「模應」は前件のことがらが後件にまではっきりと及ぶのに対し、この「手段・方法」は弱州のことがらがはっきりと後件にまで及ぶというものではなく、前件が後件の「しかた」「やりかた」を表している。 〈例〉 그 놈은 어짜피 나를 이용해서 팔자를 고치려고 한 비열한 인간이 아니냐.
	先行	①前件が先に起こり、その結果が残らないで後件が始まる。 ②)「언제」という疑問詞に答えうる。 ③「하고 나서」、「한 뒤에」、「하고서」などに言い替えが可能。 〈例〉우리는 느지막이 점심을 <u>들고</u> 부대를 떠났다.
	様態	①前件が先に起こり、その結果が残る中で後件が起こる。②「어떤 싀으로」や「어떻게」という問いに対して、「…한 상태로」、「…한 채로」という答えが可能。〈例〉 여전히 등을 돌린 채 꼼짝 않고 서 있는 맹이.
하고	原因・理由	①「하기 때문에」、「했기 때문에」との言い替えが可能。 〈例〉아내、시인의 표정이 밝지 않을걸 눈치 채고 재빨리 말을 거둔다.
	同時	(i)前件と後件が同時に行われるので、用言 1 の動作・状態が用言 2 のそれに先行しているとの 判断ができない。 ②同時性を示す「하면서」との言い替えが最も自然である。 〈例〉 거의 비몽사몽의 반최면 경지까지 <u>끌고</u> 들어갔다.
	並列	 ① 前件と後件が単に列挙される場合で、用言1と用言2の間に時間的関係性はほとんどない。 ② 「添加; 用言1に用言2を添加する場合。「하면서도」や「하고도」などの言い替えが可能。 ③ 「軽列; 川吉1と用言2を単に羅列している場合。「하기도 하고」、「하며」などの言い替えが可能。 〈例〉 무슨 질병에 질려 있었던 것도 아니고 교통사고를 당한 것도 아니었다.

【表7】作文に現れた接続形の出現頻度及び出現率(%)

区分	해서	하고	하면	하는데	하지만	하니까	해	하거나	해도	하면서	その他	計
専攻語	285	194	121	49	97	38	28	27	20	11	48	918
I	31.0%	21.1%	13.2%	5.3%	10.6%	4.1%	3.1%	2.9%	2.2%	1.2%	5.2%	100%
専攻語	229	207	128	119	64	89	25	32	19	25	59	996
11	23.0%	20.8%	12.9%	11.9%	6.4%	8.9%	2.5%	3.2%	1.9%	2.5%	5.9%	100%
第 2	76	86	57	27	38	51	51	6	2	6	39	439
外国語	17.3%	19.6%	13.0%	6.2%	8.7%	11.6%	11.6%	1.4%	0.5%	1.4%	8.9%	100%
# +	590	487	306	195	199	178	104	65	41	42	146	2,353
яT	25.1%	20.7%	13.0%	8.3 %	8.5%	7.6%	4.4%	2.8%	1.7%	1.8%	6.2%	100%

◎出現率は各グループの作文に現れた接続形の総出現頻度に対するものである。◎例えば、製는데は하는데、製으니까は하니까の項にそれぞれ含めている。



【グラフ1】上位の出現率を占めている接続形(%)

「専攻語学習大学 I」では해서が31% (285例) と最も多く,次いで하고が21.1% (194例) で多く現れた。また,「専攻語学習大学 II」でも해서が23% (229例) で最も高い割合を示しており, 하고が20.8% (207例) でそれに続く。しかし,「第2外国語学習大学」には하고が19.6% (86例), 해서は17.3% (76例) 現れており, 하고が해서より多く現れる,「専攻語学習大学」のグループとは異なる結果を見せている。

5. 해서と하고の意味別の使用傾向

ここでは、学習者の作文に現れた해서と하고との用例に焦点を合わせ、 学習者が해서と하고をどのように使い分けているか考察する。

「専攻語学習大学 I」では全員が해서と하고を両方用いており、「専攻語学習大学 II」では1名のみの学習者が해서のみを用いていた。一方.

区分	해서のみ 用いた学習者	対고のみ 用いた学習者	해서と하고両方 用いた学習者	計
專攻語学習大学!	なし	なし	16名	16名
専攻語学習大学Ⅱ	1名	なし	25名	26名
第2外国語学習大学	5名	14名	28名	47名
計	6 Å	14名	69名	89名

【表 8 】 해서と하고の使用における学習者の類型

「第2外国語学習大学」では5名の学習者が해서のみを用い、14名の学習者が하고のみを用いていた。

「第2外国語学習大学」の場合、 해서のみを使用する者に比べて하고のみを使用する者の数がその2倍以上であることは興味深い。 해서は形作りが相対的に複雑であるのに対し、 하고は全ての用言において同一の単純な形作りを示す。 そのため、 学習者にとって하고が、 形作りの上では 해서より用いやすい接続形であると言えるだろう。 すなわち、 「第2外国語学習大学」の学習者が해서より하고を多く用いており、 かつ、 해서のみ使用する者より하고のみ使用する者の方が多いことから、 学習時間が短い学習者は、 用言の形作りがより容易である하고を、 해서より好んで用いる傾向があることが読み取れる。

以下,学習者がいかなる意味を表すために해서と하고を用いるかを考察するにあたって, 해서のみないし하고のみを用いた学習者も含んだ結果と, その学習者を除いた結果を分けて表すことにする。例えば해서しか用いえない学習者にあっては, たとえ해서の特定の用法での用例が多く現れたとして, その用法を知った上での使用とは断定できないためである。

5.1. 해서の意味別の使用傾向

해서は概ね「先行」、「原因・理由」、「様態」、「手段・方法」、「条件」の意味を表す。この意味分類に従って、学習者の作文から得られた해서の用例を分類すると、表9のようになる。表9-1は해서しか用いていない学習者も含んだ場合の結果であり、表9-2は해서しか用いていない学習者は除いた場合の結果である。

「専攻語学習大学」のうち、 해서しか用いていない学習者は1名であっ

表9-1	해서	を用いた	全て(の学習者	による	結果	表9-2 해서しか用いていない学習者を除いた結果						た結果
区分	-	攻語 大学 I		攻語 大学 Ⅱ		外国語 37大学	区分		攻語 大学 I		攻語 大学 Ⅱ		外国語 劉大学
先行	24	8.4%	34	14.8%	5	6.6%	先行	24	8.4%	34	15.0%	3	5.1%
様態	7	2.5%	5	2.2%	0	0%	様態	7	2.5%	5	2.2%	0	0%
原因	176	61.8%	120	52.4%	38	50.0%	原因	176	61.8%	118	52,2%	32	54.2%
手段	14	4.9%	12	5.2%	7	9.2%	手段	14	4.9%	12	5.3%	4	6.8%
条件	7	2.5 %	10	4.4%	3	3.9%	条件	7	2.5%	10	4.4%	3	5.1%
並列	7	2.5%	8	3.5%	6	7.9%	並列	7	2.5%	8	3.5%	3	5.1%
同時	5	1.8%	8	3.5%	3	3.9%	同時	5	1.8%	8	3.5%	ı	1.7%
その他	45	15.8%	32	14.0%	14	18.4%	その他	45	15.8%	31	13.7%	13	22.0%
計	285	100%	229	100%	76	100%	計	285	100%	226	100%	59	100%

【表9】作文に現れた해서の意味別の分布

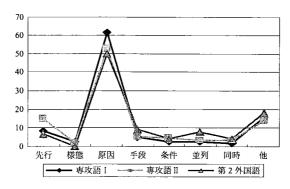
◎出現率は各グループの作文に現れた部村の総出現頻度に対するものである。◎背景の色が黒になっている部分は、最も高い出現率を示している。

たが、「第2外国語学習大学」では5名見られた。しかし、その結果を比べると、「原因・理由」となる해서が最も多く用いられていることには変わりがない。

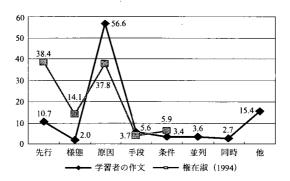
上記の表9-1の結果をグラフに表すとグラフ2のようであり、全てのグループにおける해서の意味別の出現率と韓国語母語話者の言語資料に現れた해서の意味別の出現率を比べるとグラフ3のようである:

グラフ2を見ると、学習時間が類似している「専攻語学習大学I」と「専攻語学習大学II」においても、学習時間が異なる「第2外国語学習大学」においても、同じように「原因・理由」となる해서が最も多く現れている。さらに、「原因・理由」の해서の出現率が他の意味の出現率とは顕著な差異を見せている。言い換えれば、「原因・理由」の해서はその出現率が全てのグループにおいて50%以上の高い割合を示しており、他の意味の出現率を遥かに上回っているのである。この結果は、学習者が해서を「原因・理由」の意味を表す接続形として強く認識していることを物語っている。

一方,グラフ3からは、学習者の作文における해서の意味別の出現率と、権在淑(1994)に提示されている韓国語母語話者の言語資料における해서の意味別の出現率とに、著しい差異が見られる。権在淑(1994)



【グラフ2】 해서の意味別の出現率 (%)



【グラフ3】学習者の作文と韓国語母語話者の言語資料 (権在淑 (1994)) に現れた해서 (%)

によると、小説や戯曲などの韓国語母語話者の言語資料では、해서の意味別の分布が先行(38.4%)>原因・理由(37.8%)>様態(14.1%)>条件(5.9%)>手段・方法(3.7%)という順序となっている。すなわち、韓国語母語話者の言語資料では「先行」の해서と「原因・理由」の해서がほぼ等しい比率で現れたのに対し、学習者の作文では「先行」の해서が「原因・理由」の해서に比べて著しく低い出現率を示しているわけである。このことから、学習者は「先行」の意味を表す文において、해서と他の接続形との使い分けに不安を感じ、その使用を回避しているか、あるいは해서ではない他の接続形を用いている可能性が考えられる。

なお、出現率は高くないが、学習者は本来해서が有していない「並列」、 「同時」などの意味を表すためにも해서を用いていることが、表りから見 てとれる。このような用例は全て誤用である。

5.2. 하고の意味別の使用傾向

하고は概ね「先行」、「原因・理由」、「様態」、「並列」、「同時」、「条件」 という意味を表しうる。この意味を基に学習者の作文に現れた하고を分 類すると、表10のようになる:

表10-1	하.	こを用いた	と全て	の学習者	による	結果	表10-2	하고し	か用いて	いな	い学習者	を除い	た結果
区分		攻語 大学 I	-	攻語 大学 []		外国語 劉大学	区分		攻語 大学		攻語 大学		外国語 劉大学
先行	17	8.8%	19	9.2%	12	14.0%	先行	17	8.8%	19	9.2%	8	18.6%
様態	17	8.8%	7	3.4%	2	2.3%	様態	17	8.8%	7	3.4%	1	2.3%
同時	9	4.6%	11	5.3%	4	4.7%	同時	9	4.6%	11	5.3%	2	4.7%
原因	26	13.4%	26	12.6%	10	11.6%	原因	26	13.4%	26	12.6%	4	9.3%
並列	88	45.4%	124	59.9%	40	46.5%	並列	88	45,4%	124	59.9%	18	41.9%
条件	4	2.1%	1	0.5%	3	3.5%	条件	4	2.1%	1	0.5%	3	7.0%
手段	6	3.1%	1	0.5 %	5	5.8%	手段	6	3.1%	1	0.5%	1	2.3%
その他	27	13.9%	18	8.7%	10	11.6%	その他	27	13.9%	18	8.7%	6	14.0%
計	194	100%	207	100%	86	100%	計	194	100%	207	100%	43	100%

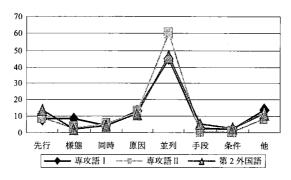
【表10】作文に現れた計立の意味別の分布

表10-1は하고しか用いていない学習者も含んだ場合の結果であり、表 10-2は計立しか用いていない学習者は除いた場合の結果である。「専攻語 対し、「第2外国語学習大学」には14名見られた。しかし、表10を見る と、하고のみを用いた学習者を除くにせよ、除かないにせよ、「並列」と なる하고が最も多く現れたことが見て分かる。

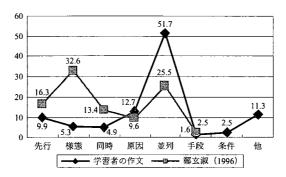
その結果をグラフに示すとグラフ4の通りである。グラフ5は鄭玄淑 (1996)を参照し、韓国語母語話者の言語資料から収集した하고の意味別 の出現率と学習者の作文から収集した하고の意味別の出現率とを比較し たものである:

[◎]出現率は各グループの作文に現れた하고の総出現頻度に対するものである。

[◎]背景の色が黒になっている部分は、最も高い出現率を示している。



【グラフ4】 하고の意味別の出現率 (%)



【グラフ5】学習者の作文と韓国語母語話者の言語資料 (鄭玄淑 (1996)) に現れた하고 (%)

グラフ4を見ると、全てのグループにおいて「並列」という1つの意味が集中的に用いられている。つまり、韓国語の学習時間がほぼ同じである「専攻語学習大学 I 」 の場合においても、また、学習時間の異なる「第2外国語学習大学」の場合においても「並列」の하고が最も多く用いられているのである。さらに、全てのグループにおいて「並列」の하고の出現率が他の意味と比べて遥かに高い比率を占めており、目立つ傾向を示している。

鄭玄淑 (1996) によると,韓国語母語話者の言語資料では하고の意味 別の分布が様態 (32.6%) >並列 (25.5%) >先行 (16.3%) >同時 (13.4%) >原因・理由 (9.6%) の順序で多く現れており、「様態」の하고が

「並列」の하고より多く見られたのである。しかし、グラフ5を見れば、 学習者の作文では「様態」の하고が「並列」の하고より顕著に低い比率 を示している。この結果から、学習者は하고を前件と後件を羅列させる 「並列」の意味として認識しており、かつ、「様態」となる하고の使用に おいて

むこと他の接続形との使い分けに不安を

感じ、その使用を

避けて いるか、もしくはその代わりに他の文法形式を用いている可能性が読み 取れる。

一方、ここで注目したいのは、学習者は様々な해서と하고の意味のうち、 「原因・理由」の해서と「並列」の하고という1つの意味を集中的に用い ていることである。このような特徴は、1つの文法形式に多様な意味が 存在する場合、学習者はそのうち、1つの意味でのみ使用する傾向があ ると解釈しうる。すなわち、学習者はある一定の学習段階に至るまでは、 1つの形態に対して1つの意味のみを対応させる傾向があると言える。

6. 해서と하고の誤用

6.1. 本稿における誤用の類型

前章では、学習者がいかなる意味を表すために해서と하고を用いてい るかを考察した。そのため、その用例の中には正用もあり、誤用も含ま れている。ここからは、学習者の誤用に重点をおき、学習者がどのよう な類型の誤用を犯しているか、誤用に対する視点を形態的な側面から文 全体の意味的な側面へ移しつつ、論じていく。

まず、해서と하고の誤用はその接続形が韓国語に存在するか否か、そ の形態の存否により大きく「存在しない接続形を作った誤用」と「存在 する接続形による誤用」に分けることができる:

THE ENGINEER OF THE PARTY.

「存在しない接続形を作った誤用」は、学習者が作り出した接続形が韓国語に存在しない場合である。例に挙げた보어서と 場外 付という接続形が用いられた用例がこれに属する。

なお,この誤用は①「語形変化の誤用」と②「形態素配列の誤用」に 下位分類することができる:

- (14) 텔레비전이나 신물을 보어서(→봐서) 대학에 늦습니다.テレビや新聞を見ていて大学に遅れます。
- (I5) 벌써 몇 번이나 봤지만 언제나 한국어 자막을 안 <u>봤어서</u>(→봐서) 영 어를 듭니다.

もう何回も見たが、いつも韓国語の字幕を<u>見ないで</u>英語を聞きます。

例(4)は用言の語形を変える活用段階において誤りが生じた用例であるのに対し、例(15)は耐서と共起することができない先語末語尾-分-を配列した誤りである。すなわち、例(4)のような「語形変化の誤用」は、活用段階において用言の音韻・形態的な環境により定まる語尾の異形態を誤って選択したものであり、例(15)のような「形態素配列の誤用」は、2つ以上の言語単位を同一線状に配列する際、それらの配列規則を誤ったものである。

一方,「存在する接続形による誤用」とは,用いられた接続形そのものは韓国語に存在するが,文の前後の意味関係により,誤用と判断されるものを言う。

(16) 영화를 <u>봐서</u>(→보면서) 바다쓰기하거나, 여러가지 문헌을 읽거나, 일본어를 만국어로 번역하고 있습니다.

映画を<u>見て</u>書き取りをしたり、いろいろな文献を読んだり、日本 語を韓国語に翻訳したりします。

例16の 単서のみを取り出して考えてみよう。 単서という接続形は、用

言と語尾を結び付ける問題に関しても、形態素を配列する問題に関して も、誤用の見られない正しい形態である。しかし、文の前後の意味関係 を考慮すると、その使用は不適切であることが分かる。

言い換えれば、「存在しない接続形を作った誤用」は文の前後の意味関 係とは無関係に、その接続形の外形のみで正誤が判断できるのに対し、 「存在する接続形による誤用」は文の前後の意味関係を問わずには正誤の 判断が不可能である。

後述するが、「存在しない接続形を作った誤用」と「存在する接続形に よる誤用」に関する、こうした差異は、해서と하고の誤用率にも大きな 影響を与え、かつ、それらの習得過程における習得順序にも大きな関わ りを持っており、重要な意味を持つのである。

「存在する接続形による誤用」は、それを文脈に合うよう正しく修正し た形態との差異から、①「他接続形の代用」と②「非接続形の代用」に 下位分類することができる。例切は「他接続形の代用」に該当する用例 であり、例(18)は「非接続形の代用」に該当する用例である:

- (五) 월요일부터 목요일까지는 보통 수업을 해서(→하고) 금요일에는 현제학습으로 여기저기 갔습니다
 - 月曜日から木曜日までは普段授業をして、金曜日には現地学習と していろいろなところに行きました。
- (18) 지금 저는 여름방학의 여행계획하고 있어요 이 여름은 동아시아 국들에 가고 싶다고 생각하고 있어요. 제가 이렇게 생각하고(→생 각하기) 시작했은 이유는 두 개 있어요.

今私は夏休みの旅行計画を立てています。この夏は東アジアの国 に行きたいと思っています。私がそう思い始めた理由は2つあり ます。

いられるべきであり、例(18)は体言形하기が用いられるべきである。本稿 では、例(ヷ)のように学習者が用いた해서あるいは하고が他の接続形の代

わりに用いられた結果、誤用となった用例を「他接続形の代用」と呼び、例(18)のように해서あるいは하고が接続形以外の文法形式の代わりに用いられ、誤用となった用例を「非接続形の代用」と呼ぶ。

6.2. 存在しない接続形を作った誤用

6.2.1. 語形変化の誤用

6.2.1.1. 해서の「語形変化の誤用」

学習者の作文には해서の「語形変化の誤用」が33例現れた。「専攻語学習大学」の作文では2.8%(14例)、「第2外国語学習大学」の作文では25%(19例)現れ、「専攻語学習大学」の作文より「第2外国語学習大学」の作文に「語形変化の誤用」が多く見られたことが特徴である。
が4の「語形変化の誤用」を用言別にまとめると表11の通りである:

【表11】 해서の「語形変化の誤用」の誤用数及び誤用率 (%)

D1 00 co 00 000	專攻語	学習大学		第2外国語	哲学習大学	*	돩		
用言の種類	用言の延べ語数	誤用数	誤用率	用言の延べ語数	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率	
子音語幹	175	3	1.7%	23	1	4.3%	4	2.0%	
ュ語幹	19	0	0%	0	0	0%	0	0%	
- 母音語幹	47	0	0%	8	2	25.0%	2	3.6%	
上母音語幹	18	0	0%	4	2	50.0%	2	9.1%	
괴母音語幹	14	1	7.1%	2	0	0%	1	6.3%	
H母音語幹	2	0	0%	0	0	0%	0	0%	
11母音語幹	0	0	0%	1	0	0%	0	0%	
一母音語幹	7	1	14.3%	1	0	0%	1	12.5%	
日母音語幹	32	1	3.1%	9	2	22.2%	3	7.3%	
一母音語幹	18	0	0%	5	4	80.0%	4	17.4%	
日変格用言	6	0	0%	4	2	50.0%	2	20.0%	
⊏変格用 言	5	0	0%	2	1	50.0%	1	14.3%	
三変格用言	15	2	13.3%	1	0	0%	2	12.5%	
指定詞	25	5	20.0%	2	2	100%	7	25.9%	
하다用言	125	1	0.8%	14	3	21.4%	. 4	2.9%	
計	508	14	2.8%	76	19	25.0%	33	5.6%	

◎誤用率は、現れた用言の延べ語数に対するものである。

この類型に属する誤用例はその出現頻度が少ないため、明確な言及は 差し控えたいが、「専攻語学習大学」の作文では指定詞(20%)、丁母音 語幹(14.3%), 三変格用言(13.3%)の順に誤用率が高く,「第2外国語学習大学」の作文では指定詞(100%), 一母音語幹(80%), 出変格用言(50%), 工変格用言(50%), 工母音語幹(50%)の順に誤用率が高く現れた。

特に「専攻語学習大学」の場合,指定詞を해서に変える際に生じた全 5 例の誤用のうち,3 例が指定詞の誤った短縮形を用いて生じたもので ある:

- (19) ユ래도 일간 또 사용할 <u>것여서</u>(→것이어서) 괜찮아, 괜찮아.しかし, いつかまた使うから大丈夫, 大丈夫。
- ②① 그 사람은 일본의 지바에 사는 <u>사람여서</u>(→사람이어서) 아주 일본 말을 잘 했다. その人は日本の千葉に住んでいる<u>人で</u>, とても日本語は上手でし

また、「第2外国語学習大学」の場合は、一母音語幹の用言を用いた全 5例のうち、4例が誤用であったことが目立つ:

- ②1) 그래도 너무 <u>바쁘서</u>(→바빠서) 아르바이트를 하는 시간이 그다지 없어서 돈에 궁합니다.しかし、忙しすぎてアルバイトをする時間がほとんどなくてお金
- ② コ러나 최근는 팔꿈치가 <u>아프어서</u>(→아파서) 쉬있입니다. しかし、最近は肘が痛くて休んでいます。

6.2.1.2. 하고の「語形変化の誤用」

に困っています。

た。

- (2) 처음은 공부와의 양립이 좀 어렵고 돈도 들고 <u>바빠고</u>(→바쁘고) 클럽을 계속할 수 있는지 불안하게 여기고 있었어요.
 初めは勉強との両立がちょっと難しいし、お金もかかるし、忙しくてクラブを続けられるか不安に思っていました。
- ② 실제로 학생으로 보고 다녀고(→다니고) 학교내는 기분이 좋고 학생들의 분위기로 좋았습니다.
 実際に学生として見て歩き回ってみたら、学校内は気持ちが良く

これらの誤用は「専攻語学習大学」の作文から収集されたものであり、 用言の語幹を해서の場合のように活用させているのが特徴である。

6.2.2. 形態素配列の誤用

「形態素配列の誤用」に属する하고の誤用は見られなかったので、ここでは해서の「形態素配列の誤用」についてのみ記述する。

6.2.2.1. 해서の「形態素配列の誤用」

て学生達の雰囲気も良かったです。

前述したように해서は先語末語尾-知-とは共に用いることはできない。 しかし,作文にはこのような文法的な制約に反する誤用例が37例現れた:

- (25) 지금은 오빠하고 재가 어른이 됐어서(→돼서) 회사에서 일하고 있으세요.
 - 今は兄と私が大人になって/なったので会社で働いています。
- (26) 더구나 우리 방의 금고도 고장 났어서(→고장 나서) 어쩔 수 없이 제가 영어로 "금고를 바꿔 주세요"나 "체크인(아웃)하고 싶어요" 나 전부 말해야 했습니다.

さらに、私たちの部屋の金庫も<u>壊れて/壊れたので</u>仕方なく私が 英語で「金庫を替えてください。」とか「チェックインしたいで す。」など全部言わなければなりませんでした。

学習者の作文に現れた해서の「形態素配列の誤用」にはいくつの顕著 な傾向が見られる。

37例の해서の「形態素配列の誤用」のうち、3例を除いた34例が「原 因・理由」の意味を表す해서であった。さらに、それを日本語に訳すと、 その多くが日本語の「するので」形に訳すことができる。日本語の「し て」形は用言の過去形の語幹と結合しえないが、「するので」形は可能で ある。つまり、このような誤用を作り出した学習者は、日本語の「ので」 を韓国語の-어서に対応させ、さらに、日本語の過去形の助動詞も韓国語 の-気-に対応させたと考えうる:

【表12】 해서の「形態素配列の誤用」の誤用数及び誤用率 (%)

区分	專攻語学習大学	第2外国語学習大学	計
誤用数	34	3	37
誤用率	6.6%	3.9%	6.3%

◎誤用率は해서の総出現頻度に対するものである。

また、表12のように해서の「形態素配列の誤用」の比率を大学別に箟 出してみると、韓国語の学習時間が短い「第2外国語学習大学」の作文 より、学習時間が長い「専攻語学習大学」の作文でより多くこの類型の 誤用が現れたことが分かる。面白いことに、これは6.2.1.1、で論じた胡 | 서の「語形変化の誤用」とは対照的な結果である。つまり、 해서の「語 形変化の誤用」は「専攻語学習大学」より「第2外国語学習大学」の作 文でより高い出現率を見せたが、해서の「形態素配列の誤用」は「専攻 語学習大学」の作文に多く見られたわけである。このことは、 해서の 「形 態素配列の誤用」は学習時間が短い学習者より長い学習者が多く犯すも のであり、これが見られなくなるまではさらに長い学習時間が必要とな ることを物語っている。これに関しては7章で詳述する。

6.2.3.「語形変化の誤用」と「形態素配列の誤用」にまたがる誤用 学習者の作文には「語形変化の誤用」と「形態素配列の誤用」が重複 して起こった用例が6例現れた:

- ② 그리고 비행기를 타는 것도 처음의 것이었서(→것이어서) 가기 전 부터 아주 흥분하고 있었습니다 そして. 飛行機に乗ることも初めてのことで/ことだったので, 行く前からとても興奮していました。
- ②》 밤 늦을 때에 봤지만 아무도 생각하지 않는게 볼 수 있는 연화였서 (→영화여서) 아주 재미있었습니다 夜遅い時に見たが、何も考えずに見られる映画で/映画だったの で、とても面白かったです。

この誤用例は6.2.2.1. で述べた해서の「形態素配列の誤用」と同じく、 前件と後件が「原因・理由」の意味で結び付いており、日本語に訳すと 「するので」形に訳すことができる。

また。この全ての6例は「専攻語学習大学」の作文に見られたもので あり、6例のうち、1例を除いた5例が例27と28のように-気-の後に-서 だけを付けてしまった誤用であった。

6.3. 存在する接続形による誤用

6.1. でも述べたように、この類型に分類される誤用は、 해서あるいは お고以外の接続形を用いるべき場合であるにもかかわらず、そこに해서 あるいは하고を当てはめてしまった「他接続形の代用」と、接続形以外 の文法形式を用いるべき場合に해서あるいは하고を用いた「非接続形の 代用」に分けることができる。

ところで、「他接続形の代用」に分類される誤用は、해서と하고が表す 意味を基準とし、①「機能拡大の誤用」と②「形態選択の誤用」に下位 分類することができる:

非接続形の代用

存在する接続形による誤用

例29は3つのことがらが時間的な関連性なしに、単に列挙されている 文であるため、 해서ではなく하고が用いられるべきである:

② 이야기하는 상대도 없어서(→없고) 같이 옷는 상대도 없어서(→없고) 싸우는 상대도 없었습니다. [並列: 해서→하고] 話す相手もいないし、一緒に笑う相手もいないし、喧嘩する相手もいませんでした。

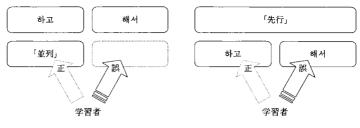
すなわち、例29は해서が本来有していない「並列」という意味を表すために해서が用いられた誤用である。本稿では、このように해서あるいは하고が本来表しえない意味を表すために用いられた誤用を「機能拡大の誤用」と呼ぶことにする。

(30) 우리 대학교에서는 일학년하고 이학년이 같이 한국에 같이 <u>가고</u>(→ 가서) 한국외국어대학교 대학생들하고 교류하게 되고 있습니다. [先行: 하고→해서] うちの大学では一年生と二年生が一緒に韓国に<u>行って</u>韓国外国語 大学の大学生達と交流することになっています。

一方,例30は「学校に行く」ということがらが「韓国外国語大学の大学生と交流する」ということがらに先立って起こったことを,表そうとしている。

先行研究で明らかにされているように、해서も하고も「先行」の意味を表すことができるが、例(30)の場合は、用言の性質から해서が選択されるべきである。すなわち、例(30)は誤って類似の意味を持つ接続形を用いてしまった誤用である。本稿ではこのような誤用を「形態選択の誤用」と呼ぶことにする:

では、なぜ学習者の用いた해서と하고が文の意味関係において不適切であるのか。先行研究に基づいて検討してみよう。権在淑(1994)と鄭



【図2】「機能拡大の誤用」

【図3】「形態選択の誤用」

玄淑(1996) にも言及がある通り、 해서と하고の種々の意味はそれと結 び付く用言の種類と深い関わりを持っている。以下では学習者が用いた 用言に注目して誤用である理由を検討し、해서と하고の用法に関して学 習者に何を教えるべきであるか考えてみる。

この類型には「語形変化の誤用」と「形態素配列の誤用」の用例も含 まれているが、併せて論じてゆく。

また、学習者が作文で用いた用言を本稿未尾に提示しておく。

6.3.1. 他接続形の代用

6.3.1.1. 機能拡大の誤用

6.3.1.1.1. 해서の「機能拡大の誤用」

해서の「機能拡大の誤用」は「専攻語学習大学」で39例、「第2外国 語学習大学」で10例が現れた。特に「並列」の意味を表すために해서が 用いられた誤用例が42.9% (21例) で最も多く見られ、その次に「同時」 の意味を表すために해서が用いられた誤用例が32.7%(16例)で多かっ *t*-:

- (31) 수업이 끝난 후에 이야기를 해서(→하고) 쉬는 날에는 같이 놀러도 갔습니다. 「並列: 해서→하고] 授業が終わった後に話をしたり、休みの日には一緒に遊びにも行 きました。
- (32) 그리고 우리는 그들 예술적인 경기를 봐서(→보고/보면서) 열광

하다 [同時:해서→하면서/하고] そして私達は彼らの芸術的な競技を見て熱狂する。

これ以外にも、出現数は少ないが、耐暑の表しえない以下のような意 味を表すためにも해서が用いられていた:

- (③) 호주에는 작년도 2주동안 가서(→갔는데) 이번에 같이 갈 친구는 그 때 친구가 된 사람입 니다. 「背景:해서→하는데] オーストラリアには去年も2週間行ったが、今回一緒に行く友達 はその時友達になった人です。
- (와 제가 혼자서 살기 시작한 지 한 일년이 지났습니다만, 혼자서 살아 봐서(→살아보니까). 가족의 중요함을 느낍니다. 「契機: 해서→ 하니까]
 - 私は一人暮らしを始めておよそ1年が過ぎましたが、一人で住ん でみて家族の大切さを感じました。
- ⒀ 처음으로 인상대로 한글은 재미 있어서 요즘에는 월드컵사커의 영 향도 있고 텔레비전에서 한국어를 듣지 않은 일이 없어서도(→없어 도) 나의 공부의식을 높이고 있습니다. [讓歩:해서→해도] 初めての印象通りにハングルは面白くて、最近はワールドカップ のサッカーの影響もあって、テレビで韓国語を聞くことがなくて も私の勉強の意識を高めています。

例33は後件を述べるための背景的な内容が前件に表れているため、計 는데を用いるのが自然であり,例(M)は後件の事実を発見したきっかけが 前件に表れているため、計りがを用いるべきである。また、例35は前件 が行われなくても後件が実現するという譲歩的な意味を表しているため、 が三を用いるのが正しい。

表13を見ると、 하고の代わりに해서が用いられた誤用例が「専攻語学 習大学」(71.8%/28例)と「第2外国語学習大学」(90%/9例)両方

適切な接続形	意味	専攻語:	学習大学	第2外国語	哲学習大学	計			
1回90 な1を80112	ASL-SK	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率		
하고/하며	並列	15	38.5%	6	60.0%	21	42.9%		
하고/하면서	!/하면서 同時		33.3%	3	30.0%	16	32.7%		
하는데	背景	4	10.3 %	0	0%	4	8.2%		
하니까	契機	2	5.1%	1	10.0%	3	6.1%		
해도	譲歩	2	5.1%	0	0%	2	4.1%		
하다가	中断	1	2.6%	0	0%	1	2.0%		
해야	必須条件	ı	2.6%	0	0%	1	2.0%		
하면 仮定条件		ı	2.6%	0	0%	1	2.0%		
計	39	100%	10	100%	49	100%			

【表13】 해서の「機能拡大の誤用」

◎誤用率は到外の「機能拡大の誤用」の総出現頻度に対するものである。

において最も多く現れており、際立っている。

6.3.1.1.2. 하고の「機能拡大の誤用」

하고の「機能拡大の誤用」は、「専攻語学習大学」で20例、「第2外国語学習大学」で5例が現れた。そのうち、「手段・方法」を表すために하고が用いられた用例が48%(12例)で最も多く、「背景」の意味を表すために하고が用いられた用例が40%(10例)でそれに続く:

- (36) 여름에 이 서점에서 아르바이트를 많이 <u>하고</u>(→해서) 여행 하고 싶을 때 위해서 저금할 것이다. [手段・方法: 하고→해서] 夏にこの書店でアルバイトをたくさん<u>して</u>旅行したい時のために貯金するつもりだ。
- ③ 합숙은 니이가타에서 <u>행하고</u>(→하는데/행해지는데) 식사가 안나 오니까 우리가 우리 자신으로 밥을 만들어야 합니다. [背景:하고→ 하는데]

合宿は新潟で<u>行なわれて</u>,食事が出ないので私達が自分でご飯を 作らなければなりません。

例30は、「貯金する」ということがらの手段・方法である「アルバイト

をする」ということがらが前件に表れているため、「手段・方法」の意味 が表しうる해서を用いるべきである。また、例のは後件を述べるための 背暑的な状況が前件に表れているため、 か는데を用いるのが適切である。 一方、出現頻度は少ないが、次のような意味を表すためにも하고が用

いられていた:

(38) 특히 제가 초등학생였을 때하고 비교하고(→비교하면) 아주 다릅 니다. 「仮定条件: 하고→하면] 特に私が小学生だった時と比べて、非常に異なります。

(39) 실제로 학생으로 보고 다녀고(→다녀 보니/다녀 보니까) 학교내 는 기분이 좋고 학생들의 분위기도 좋았습니다. [契機:하고→하 니/하니까]

実際に学生として見て歩き回ってみたら、学校内は気持ちが良く て学生達の雰囲気も良かったです。

하고の「機能拡大の誤用」の結果をまとめると表14のようになる:

適切な接続形	意味	専攻語	学習大学	第2外国語	哲学習大学	#t			
週別な接続形	恩殊	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率		
해서	手段・方法	7	35.0%	5	100%	12	48.0%		
하는데	背景	10	50.0%	0	0%	10	40.0%		
하면	仮定条件	2	10.0%	0	0%	2	8.0%		
하니까	契 機	1	5.0%	0	0%	1	4.0%		
計		20	100%	5	100%	25	100%		

【表14】 하고の「機能拡大の誤用」

◎誤用率はお고の「機能拡大の誤用」の総出現頻度に対するものである。

表14から分かるように、 해서の代わりに하고の用いられた誤用例が 「専攻語学習大学」では2番目に、「第2外国語学習大学」では1番目に 多く現れた。

さらに、
が対の「機能拡大の誤用」の用例も、
が立の「機能拡大の誤 用」の用例も日本語に訳してみると、ほとんどの用例が日本語の「して」 形に訳しうる。そのため、「契機」、「背景」など해서と하고が両方とも有 さない意味を表す文においても、 해서と하고が誤って用いられたと思われる。

また、「専攻語学習大学」の作文において、例37のように하는데を用いるべきところに하고が用いられた誤用例が、 해서の場合より 6 例も多く見られたことが目立つ。面白いことに、これらの用例を分析してみると、「並列」の하고と同様に前件と後件間の時間的な関連性が弱い。 すなわち、5.2. に言及したように、学習者は하고を「並列」の意味として強く認識しているため、時間的な順次性のない前後件が並べられていると判断される場合、その日本語の「して」形を하고に対応させる傾向があると考えられる。

6.3.1.2. 形態選択の誤用

6.3.1.2.1. 해서の「形態選択の誤用」

해서の「形態選択の誤用」は、「専攻語学習大学」で48例、「第2外国語学習大学」で8例現れ、全56例が見られた:

rate Larr Jr. Jedy Gde TES	意味	専攻語	学習大学	第2外国語	哲学習大学	āf·			
適切な接続形	思味	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率		
하니까	原因・理由	19	39.6%	5	62.5%	24	42.9%		
하고	原因・理由	10	20.8%	3	37.5%	13	23.2%		
하고	先行	10	20.8%	0	0%	10	17.9%		
하고	様態	9	18.8%	0	0%	9	16.1%		
計	•	48	100%	8	100%	56	100%		

【表15】해서の「形態選択の誤用」

◎誤用率は해서の「形態選択の誤用」の総出現頻度に対するものである。

表15を見ると、 해서の「形態選択の誤用」の多くを占めているものは、「原因・理由」を表すために하니かが用いられるべきところに해서が用いられた例である:

[原因・理由: 해서→하니까]

(40) 저는 이 ESS 가 정말 <u>좋아해서</u>(→좋아하니까) 지금부터도 열심히 활동에 참가하고 싶습니다.

私はこの ESS が本当に好きなので、これからも一生懸命活動に参 加したいです。

(41) 그리고 9월에는 동경에 있어서(→있으니까) 아르바이트와 클럽을 많이 할 예정입니다. 「原因・理由:해서→하니까] そして、9月には東京にいるので、アルバイトとクラブをたくさ んするつもりです。

権在淑(1994:42) は、例40と41)のように命令・禁止・依頼・勧誘・ 約束など意志で制御可能なことがらの「理由」を述べるには하니外を用 い、해서は用いられないと、해서と하니까の用法の違いを述べている。 また 「原因・理由」を表すために하고を用いねばならないのに、 해서

[原因・理由: 해서→하고]

が用いられた例もある:

- 42) 그는 여자친구가 있는 것을 최근 저는 들어서(→듣고) 굉장히 놀랐 습니다. 「原因・理由: 해서→하고] 彼に彼女がいることを最近聞いて、とても驚きました。
- ⑷ 하지만 호스트는 제가 불안하고 긴장하고 있었던 것을 알아서(→알 고) 정말 친절하게 해 주었습니다. 「原因・理由:해서→하고」 しかし、ホストは私が不安で緊張していることを知って、本当に 親切にしてくれました。

り、実際扱った資料から巨다が해서を取っていた例は1つしか見つける ことができなかったと報告している。このことから、例42/と43/のように 用言1が知覚動詞であり、前件と後件が「原因・理由」の意味で結び付 いている場合は、해서より하고が現れやすいと言える。

次に多く現れた해서の「形態選択の誤用」は、「先行」の意味を表すた めに하고が用いられるべき用例である:

[先行: 해서→하고]

(44) 저는 그 영화를 <u>봐서</u> (→보고) 북한과 한국에 대해서 많이 생각했습니다.

私はその映画を見て北朝鮮と韓国についてたくさん考えました。

(45) 그 이유는 제가 남의 이야기를 잘 들어서 (→듣고) 자신의 단점이 알게 됐기 때문입니다.

その理由は私が他人の話をよく<u>聞いて</u>自分の短所を知るようになったからです。

権在淑(1994:12-22)は、用言1に動詞を中を用いて「先行」の意味を表すには、해서ではなく基本的に하고を取る必要があると述べている。 実際、2名の韓国語母語話者にを中の해서形で「先行」の意味を表す例文を作るように依頼したところ、不可能であるという返事が返ってきた。さらに、韓国語母語話者は例44の用言1보中も해서形では「先行」の意味を表しにくいと指摘した。つまり、用言1に動詞を中と見いて「先行」の意味を表す場合には、하고を用いるのが適切である。

[様態:해서→하고]

- (46) ユ 외삼촌과 공항버스를 <u>타서(→</u>타고) 집에 갔습니다. その叔父さんと空港バスに乗って家に行きました。
- (47) 그래서 마지막 밤의 폐제실에서는 우리는 친구들이나 선생님하고 자식이 <u>얼싸아서(→얼싸안고/껴안고)</u> 많이 울었다. それで最後の夜の閉会式では、私達は友達や先生を互いに<u>抱きし</u>めてたくさん泣いた。

例40と47)は「様態」の意味を表すため、해서ではなくお고が用いられるべき用例である。鄭玄淑(1996:40)は、主体が客体に向かって移動して主体と客体が一体化する「客体保持」と、主体が客体を保持する「主体保持」の文において하고は概ね「様態」の意味を表し、해서との言い替えは不可能であると述べている。例40は主体が客体である空港バスに

乗り、主体と客体が一体化になり、例(切は主体が客体である友達や先生) を抱きしめる行動により、主体と客体が一体化になるので하고を用いる 方が自然である。

6.3.1.2.2. 하고の「形態選択の誤用」

お고の「形態選択の誤用」は、「専攻語学習大学」で77例、「第2外国 語学習大学」で18例現れ、全95例見られた:

*森Fロッ。 +なを実立。	2001	専攻語:	学習大学	第2外国語	吾学習大学	計			
適切な接続形	意味	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率	誤用数	誤用率		
해서 (하니까)	原因・理由	41 (1)	53.2% (1.3%)	9	50.0%	50 (1)	52.6% (1.1%)		
해서	先行	21	27.3%	6	33.3%	27	28.4%		
하면서/하며	同時	12	15.6%	2	11.1%	14	14.7%		
해서	条件	2	2.6%	1	5.6%	3	3.2%		
計	•	77	100%	18	100%	95	100%		

【表16】 하고の「形態選択の誤用」

◎誤用率は하고の「形態選択の誤用」の総出現頻度に対するものである。

表16を見ると、最も多く現れた하고の「形態選択の誤用」は、「原因・ 理由」の意味を表すために計立が해서の代わりに用いられたものである:

[原因・理由: 하고→해서]

- (松) 할아보지는 자동차를 너무 좋아하시고(→좋아하셔서), 일흔 일곱 살이 되신 지금도 자동차를 운전하고 있으십니다
 - お祖父さんは車がとても好きで、77歳になった今も車を運転して います。
- ⑷ 연습은 아주 고통스럽고(→고통스러워서) 저는 자주 집에 가고 싶 다고 느낍니다

練習はとても苦しくて、私はよく家に帰りたいと思います。

権在淑(1994:15-17)は、「原因・理由」となる해서について、用言 1に無意志動詞が位置する場合が圧倒的に多く、特に用言1に形容詞が 来ると、その多くは「原因・理由」になると述べている。一方、鄭玄淑 (1996:29) は「原因・理由」の하고の用例のうち、用言1が形容詞であった例はわずか2例しか現れなかったと、「原因・理由」の해서とは対照的な結果を記している。このことは、例48と49のように用言1に形容詞を用いて「原因・理由」の意味を表すためには、해서が適切であることを物語っている。

なお、権在淑(1994:21)は「原因・理由」となる해서の特徴として、例500と500のように用言1に否定形や不可能形が来る傾向が強いと述べている。他方、鄭玄淑(1996:28)は、「原因・理由」となる하고は用言2に可能・不可能形が来ることが多いとしている:

[原因・理由: 하고→해서]

- (50) 역시 자기분석을 할 것은 자기 성장도 볼 수 있고(→볼 수 있어서) 좋은 기회입니다. やはり自己分析をすることは自己成長も見ることができて良い機会です。
- (51) 귀국한 후, 한국에서 서로 알게 된 동갑의 남자에게 한국어로 편지를 썼지만, 대답가 <u>오지 않고</u>(→오지 않아서) 매우 슬펐다. 帰国した後,韓国で知り合った同じ年の男に韓国語で手紙を書いたが,返事が来なくてとても悲しかった。

次に目立つ하고の「形態選択の誤用」は、用言1が移動動詞で、「先行」の意味を表すために하고が用いられた誤用である:

[先行:하고→해서]

(52) 아버지가 HONDA 에 근무하기 때문에 저는 가족들하고 같이 미국에 <u>가고</u>(→가서) 거기서 살 수 있었습니다. 父がホンダに勤務しているため,私は家族と一緒にアメリカに行っ

て, そこに住むことができました。

権在淑(1994:12-13)は、「先行」の해서は用言1に具体的な動作を

表す動作動詞が来る傾向が強く、とりわけ移動動詞が位置する場合が最 も多いとしている。これに反して、鄭玄淑(1996:15)は扱った881例 のうち、用言 1 に移動動詞が用いられた하고の用例は、わずか 5 例しか 現れなく、それらの全ては「先行」の意味ではなく、「原因・理由」や 「並列」であったと報告している。つまり、例62のように用言1に移動動 詞を用い、「先行」という意味を実現するためには、해서を用いるべきで

例除は 前件と後件が同時に行われるという意味を表すため、 あ고で はなく하면서を用いるべき例である:

[同時: 하고→하면서]

ある。

(53) 저는 그런 아주 재미있는 선생님의 수업을 매일 열심히 듣고(→들으 면서) 생활을 하고 있습니다.

私はそんなとても面白い先生の授業を毎日一生懸命聞いて生活を しています。

以上、 해서と하고の「形態選択の誤用」を見たが、6.3.1.1. で述べた해 **서と하고の「機能拡大の誤用」の場合と同じく、하고の代わりに해서が** 用いられた用例が57.1% (32例)、 해서の代わりに하고が用いられた用 例が84.2% (80例) 現れ、最も多かった。このことから、学習者は해서 の使用において하고との区別が見分けられておらず、また、하고の使用 においては해서との区別が見分けられていないことを改めて確認するこ とができる。

ところで、ここで注目したいのは、学習者は해서と하고との使い分け 以外にも、同じく文の因果関係を表す해서と하니까の用法や、前件と後 件の同時性を表しうる하고と하면서、하며の用法との区別が見分けられ ない点である。

なお、「原因・理由」の意味を表すために하니かが用いられるべきとこ ろに耐서が用いられた誤用例は19例見られたのに対し、 하고が用いられ た誤用例は1例しか見られなかったことも特記すべきことである。

6.3.2. 非接続形の代用

해서の「非接続形の代用」は11例(専攻語学習大学:10例, 第2外国語学習大学:1例)現れ, 하고の「非接続形の代用」は6例(専攻語学習大学:3例, 第2外国語学習大学:3例) 現れた。そのうち, 最も際立つ誤用例は、 한 习及び で すの代わりに がが用いられた誤用である:

- 54 한국어를 공부하기 <u>시작해서</u>(→시작한 지) 벌써 1 년이 지났습니다.韓国語を勉強し始めてもう1年が過ぎました。
- 55) 나이를 <u>먹어서(→</u>먹은후) 한국에 살 수 있으면 최고입니다.年を取って韓国に住めれば最高です。

例64の場合,前件が後件より先に行われたという点においては「先行」 の해서と似通っているが、前件が現在までも続いているため、해서では なくむ 习を用いねばならない。

また, 以下のような「非接続形の誤用」も見られた:

- (56) 놀은 시간도 없습닌데요, 자기가 좋아하는 일을 하고 있은데, <u>즐겁으나서</u>(→즐겁게) 할 예정있읍니다.
 遊ぶ時間もないが、自分が好きなことをしているので、楽しくする予定です。
- (57) 지금 저는 이 영화보다 좋아되는 영화는 없어서(→없다고) 생각해 요.

今私はこの映画より好きになる映画はないと思います。

(58) 지금 저한테 왜 그 마음이 <u>없어서</u>(→없는지) 모릅니다. 今の私になぜその心がないのかわかりません。

既存の誤用分析は、現れた学習者の誤用例を単に列挙することに留まっている。そのため、学習者がある特定の文法形式をいかなる文法形式と 主に混用し、誤用を生み出しているのかを明確に把握することができな かった。それに対して本稿は、 해서と하고がいかなる接続形の代わりに 用いられて誤用となったのか、全ての誤用例を漏れなく分析し、精密に 数量化することによって、学習者の해서の使用において、また하고の使 用においていかなる接続形が、それらの使用に否定的な影響を与えるの かを見たのである。

7 해서と하고の習得順序

ここまでに分類した誤用の類型のうち、いずれの誤用の類型がより先 に無くなり、また、種々の해서と하고の意味のうち、どの意味が先に習 得されるのだろうか。この章では、本稿で分類した誤用の類型と習得順 序との関連性や、해서と하고の意味別の習得順序について検討する。

7.1. 誤用の類型と習得順序との相関性

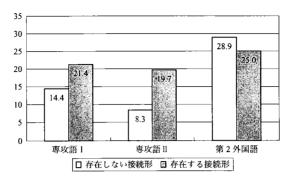
本稿では、学習者が作り出した해서と하고の接続形が韓国語に存在す るか否かにより、「存在しない接続形を作った誤用」と「存在する接続形 による誤用」と分類した。6章にも言及した通りに、「存在しない接続形 を作った誤用」(例 보어서 봤어서) は文の意味関係を考慮しなくても 正誤の判断が可能であるのに対し、「存在する接続形による誤用」は文全 体、ひいては文脈まで視野に入れなければ正誤の判断が不可能である。

この節では、これらの誤用に関するこうした相違点が、해서と하고の 誤用率にいかなる影響を与え、またそれが習得順序とどのように関連を 持つのかについて論じる。

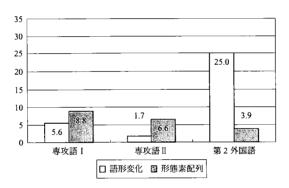
まず、해서の誤用率とその類型との相関性を考えてみよう:

グラフ6は、学習者の作文に現れた해서の誤用を「存在しない接続形 を作った誤用」と「存在する接続形による誤用」に分けて算出した誤用 率であり、グラフ7は、「存在しない接続形を作った誤用」の下位分類で ある「語形変化の誤用」と「形態素配列の誤用」の誤用率を示したもの である。

この2つのグラフからは、「専攻語学習大学」と「第2外国語学習大 学」の学習者の誤用率に大きな違いが見られる。2.1で述べたように「専



【グラフ6】 해서の「存在しない接続形を作った誤用」と 「存在する接続形による誤用」の比率(%)



【グラフ7】 해서の「語形変化の誤用」と 「形態素配列の誤用」の比率 (%)

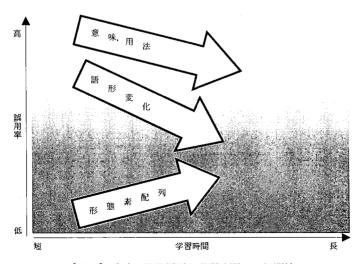
攻語学習大学」の学習者と「第2外国語学習大学」の学習者は平均年齢 や平均学習期間はほぼ同様であるが、平均学習時間においては大きな差 がある。よって、グラフ6と7に見られる違いを、「専攻語学習大学」と 「第2外国語学習大学」の学習時間の差に関連付けて考えてみることがで きる。

まず、グラフ6を見ると、「専攻語学習大学」の作文には、「存在する接続形による誤用」が「存在しない接続形を作った誤用」より高い割合で出現している。これに対し、「第2外国語学習大学」の作文には、「存在しない接続形を作った誤用」と「存在する接続形による誤用」が両方

とも高い割合を占めていることが見てとれる。この結果は、学習時間が 長くなるにつれ、「存在しない接続形を作った誤用」は減り、해서の形作 りがその意味や用法より先に習得されている可能性が高いことを示す。

なお、グラフ 7 を見ると、「専攻語学習大学」の学習者は「語形変化の誤用」より「形態素配列の誤用」を多く犯している反面、「第 2 外国語学習大学」の学習者はそれとは対照的に「語形変化の誤用」を非常に多く犯している。しかし、「第 2 外国語学習大学」の作文に「形態素配列の誤用」が多く現れなかったからといって、「第 2 外国語学習大学」の学習者が耐서と一以一における共起の制約を耐서の活用規則よりも先に習得したとは考えにくい。むしろ、「第 2 外国語学習大学」の学習者は一以一を耐서に結び付けること自体を考えられなかったか、あるいは過去形の使用を避けようとした結果であると思われる。よって、この結果からは、学習時間の流れに沿って頻出する誤用の類型が、変化しうるという事実が読み取れる。すなわち、耐서の「形態素配列の誤用」は、韓国語学習の初期段階にはほとんど現れない潜在的な誤用であり、学習時間が長くなるにつれて多く現れる誤用であると言えよう。

以上で述べたことを図示すると、図4のようである。



【図4】 해서の誤用類型と学習時間との相関性

次は、
하고の誤用率を類型別に見てみよう:

区分	存在しない接続	形を作った誤用	存在する接続形による誤用						
区ガ	誤用数	誤用数	誤用数	誤用数					
専攻語学習大学 1	2	1.0%	57	29.4%					
専攻語学習大学Ⅱ	0	0%	44	21.3%					
第2外国語学習大学	0	0%	26	30.2%					
=1-	١ ,	0.49/	127	26.10/					

【表17】 하고の類型別の誤用率 (%)

◎誤用率はお고の総出現頻度数に対するものである。

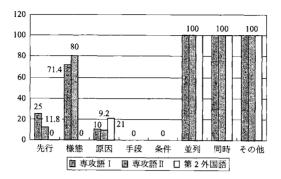
하고は해서と違って「形態素配列の誤用」は現れず、さらに「語形変化の誤用」も2例しか現れなかった。「第2外国語学習大学」の学習者が 해서の「語形変化の誤用」を19例(25%)も犯しているのとは対照的な 結果である。このことから、하고に関する活用規則は、「第2外国語学習大学」の学習者が経た学習時間より、早い時期で習得されうることが想定できる。なお、「専攻語学習大学」の学習者も하고よりは해서の活用に多くの誤用を犯している点から、하고の活用規則が、해서の場合より先に習得されうることが考えられる。

7.2. 해서と하고の意味別の習得順序

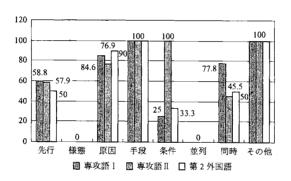
7.1. では해서と하고の形作りが意味や用法より先に習得されうることを考察した。ここでは해서と하고の様々な意味にも習得順序が存在するかについて考察する:

グラフ8は作文に現れた해서のうち、正誤の判断が不明確である用例を除いた529例に対する意味別の誤用率を示したものであり、グラフ9は作文に現れた하고のうち、正誤の判断が不明確である用例を除いた452例に対する意味別の誤用率を示したものである。

グラフ8を見ると、誤用率が最も低い해서の意味は、誤用率が0%である「手段・方法」や「条件」である。しかし、해서の総出現頻度に比べ、この意味の出現頻度がわずかであるため、この結果が有意味であるとは言いがたい。「第2外国語学習大学」の作文における「先行」と「様



【グラフ8】 해서の意味別の誤用率 (%)



【グラフ9】 하고の意味別の誤用率 (%)

態」の場合も同様である。

他方,「原因・理由」となる해서は、全てのグループにおいてその出現率が最も高い(50%以上)のに対し、低い誤用率を示していることに注目されたい。

また、グラフ9からは「様態」と「並列」の하고が一番低い誤用率を 占めていることが見てとれる。しかし、「様態」の하고の用例は全てのグ ループにおいてその出現率が10%以下であるのに対し、「並列」の하고 は50%以上の出現率を占めているため、これらの誤用率が同じく0%で あるとしても対等な有意性を持っているとは言いがたい。つまり、学習 者が種々の해서の意味のうち、「原因・理由」の意味を最も多く用いる上 に、それを高い割合で正しく用いているのと同様に、学習者は「並列」の하고を他の意味と比べ、非常に多く用いており、かつ、正確に用いているのである。この結果は、いくつもある해서と하고の意味のうち、学習者は「原因・理由」となる해서と「並列」となる하고を、他の意味より、先に習得しうることを物語っている。

既存の習得順序に関する研究は、異なる文法形式間の習得順序を見極めることに集中しており、1つの文法形式が担う多様な文法的な意味、用法と文法的な形作りの相関関係まで視野に入れた習得順序については関心を払わなかった。しかし、以上で見たように、1つの文法形式の中でもそれが関わる文法的な事項により、何が先に習得されるかが異なり、なおかつ、1つの文法形式が持つ意味にも特定の習得順序がありうることが、本稿で明らかになった。

8.終わりに

本稿では、学習者の自由作文に現れた해서と하고を中心に学習者が해 서と하고をどのように使い分けており、どのような類型の誤用を犯して いるか、また해서と하고における習得順序について考察を行なった。

本稿で浮かび上がった事実を総括しよう:

以上の結果からは、学習者による해서と하고の使用に関する特徴のみならず、人間のL2習得の発達段階に関する特徴をも得ることができよう。学習者は해서を「原因・理由」の意味として、また하고を「並列」の意味として集中的に用いており、해서と하고の形作りに関わる誤用より、意味、用法に関わる誤用をより多く作り出している。このことは、ある文法形式にいくつの意味が存在する場合、学習者はその意味に関する用法より、形作りに関する規則を先に習得し、かつ、ある学習段階に至るまでは、その形態に1つの意味のみを対応させる傾向が強いことを示唆しているのである。

また、上述の結果を基に해서と하고の意味や用法に関する指導について、いくつか提案することができる:

- ●学習時間が長い「専攻語学習大学」の学習者は、 해서 (26.9%) を하고 (21%) より高い割合で用いたのに対し、学習時間が短い「第2外国語学習大学」の学習者は、 하고 (19.6%) を해서 (17.3%) より高い割合で用いていた。なお、「専攻語学習大学」の場合は、 1名を除いた41名の学習者が해서と하고を両方用いていたのに対し、「第2外国語学習大学」の場合は、 해서のみ (5名) より하고のみ (14名) を用いた学習者が多く見られた。このことから、学習時間が短い学習者は、 해서より簡単な構造を成す하고を好んで用いる傾向があるということが想定できる。
- ●「専攻語学習大学」と「第2外国語学習大学」の作文に現れた해서とお고の多くの用例が、日本語の「して」 形に対応しうる。すなわち、学習者は日本語の「して」形を해서とお고に対応させる傾向が強いと思われる。
- ●「導攻語学習大学」と「第2外国語学習大学」の学習者は共通して、制材は「原因・理由」の意味を表すために(「専攻語学習大学」: 57.6%、「第2外国語学習大学」: 50.0%)、計立は「並列」の意味を表すために(「専攻語学習大学」: 50.9%、「第2外国語学習大学」: 46.5%)最も多く用いていた。この結果は、学習者は部々「原因・理由」の意味を表す接続形として、計立を「並列」の意味を表す接続形として認識しているということを物語っている。

接続形の誤用 (328例) 接続形の誤用 (328例) 接続形の誤用 (328例) 存在する接続形による誤用 (252例) (本達成形の誤用 (328例) (本達成形のは用 (43例) (本達成形のは用 (43例) (本達成形の代用 (43例) (本達成形の代用 (451例) (本達成形の代用 (17例) (151例) (151例) (151例)

- ※「存在する接続形による誤用」の出現数には、異なる意味を持つ、2つ以上の接続形に直しうるために「機能拡大の誤用」や「形態拡大の誤用」のいずれにも分類できない誤用例が10例含まれている。
- ●해서の「語形変化の誤用」は、学習時間の長い「専攻語学習大学」(2.8%) より学習時間が短い「第2外国語学習大学」(25%) の作文に多く見られた。
- ●하고の「蓋形変化の誤用」は、 朝村の「蓋形変化の誤用」の場合とは対照的に全ての用例のうち、 2 例しか 見られなかった。
- ●離州の「形態素配列の誤用」は、学習時間が短い「第2外国語学習大学」(39%) より学習時間が長い「専 攻語学習大学」(66%) の作文に多く見られた。また、3例を除いた34例の離州の「形態素配列の誤用」が、 「原因 理由」の意味を表す文であり、日本語に訳すと、ほとんどの誤用例が「するので」形に訳しうる。す なわち、学習者は「原因・理由」の意味を表す文において、離州を日本語の「して」形以外に「するので」 形にも対応させているのである。そのため、「したので」を製気州という存在しない接続形で表してしまう誤 用を犯す。
- ●学習者は日本語の「して」形を韓国語の해서あるいは하고に対応させる傾向があるため、「契機」、「背景」など해서と하고が共に有していない意味を表す文においてもこれらを用い、誤用を犯している。
- ●学習者は耐州を、主に計立あるいは「原因・理由」の計場がを用いるべきところで用い、誤用を犯している。
- ●学習者は하고を、主に해서あるいは「同時」の하면서/하며、「背景」の하는데を用いるべきところで用い、 誤用を犯している。
- ●「専攻語学習大学」の作文では、「存在する接続形による誤用」が「存在しない接続形を作った誤用」より高い出現率を示したが、「第2外国語学習大学」の作文では、「存在しない接続形を作ったの誤用」と「存在する接続形による誤用」が其に高い出現率を示した。つまり、学習時間が長くなるにつれ、「存在しない接続形を作った誤用」が「存在する接続形による誤用」に比べ、減るのである。このことから離州と하고という接続形の形作りが、それらの用法より先に習得しうることが読み取れる。
- ●計2の「存在しない接続形を作った誤用」は、全ての用例のうち、2 例しか現れなかった。この結果は、計 2の形作りが端州のそれより先に習得しうることを示す。
- ●「専攻語学習大学」の作文では、朝村の「形態素配列の誤用」(7.9%) が「語形変化の誤用」(3.9%) より高 い出現案を示したが、「第2 外国語学習大学」の作文では、朝村の「語形変化の誤用」(25%) が「形態素配 列の誤用」(3.9%) より高い出現率を示した。すなわち、朝村の「形態素配列の誤用」は学習時間が長くな るにつれて多く現れるものである。
- ●「専攻語学習大学」と「第2外国語学習大学」両方の作文において「原因・理由」の해서や「並列」の하고が出現率に比べ、低い誤用率を示した。このことから、「原因・理山」の해서が他の해서の意味より先に習得しうり、「並列」の하고が他の하고の意味より先に習得しうることが考えられる。
- 1. 日本語では「して」形が用いうるものの、해서と하고を用いては 表せない意味や、해서のみあるいは하고のみが持っている意味に ついて強調し、教育する必要がある。
- 2. 해서あるいは하고と類似の意味を有する接続形、例えば、해서と 하고、해서と하니까、하고と하면서あるいは하며、하고と하는데

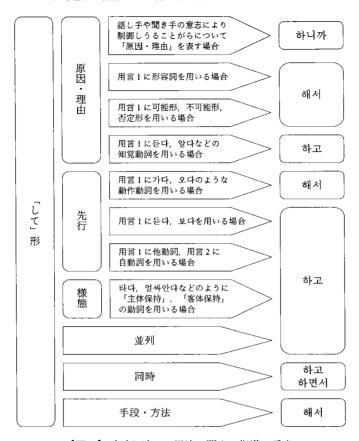
の用法との差異について比較しつつ、教育する必要がある。

- 3. 「原因・理由」の해서と하니까、 하고について次のように指導する。
 - ①話し手や聞き手の意志により制御しうることがらについて「原因・理由」を表す場合は、 해서ではなく하니까を用いる。
 - ②用言1に形容詞を用いる場合は、 하고ではなく해서を用いる。
 - ③用言1に可能形・不可能形、否定形を用いる場合は하고ではな く、해서を用いる。
 - ④用言1に
 に
 に
 に
 いる場合は、
 が
 が
 は
 なく
 か
 か
 立を
 用いる。
- 4. 「先行」の해서と하고について次のように指導する。

 - ②用言1に 言い、 보다を用いる場合は、 해서ではなく 하고を用いる。
 - ③用言1に他動詞、用言2に自動詞を用いる場合は、해서ではなく
 うることにはいる。
- 5.「様態」の해서と하고について次のように指導する。
 - ① 타다や 望州 안 다のように 主体が 客体に 移動 し、主体と 客体と 一体化する 場合と 主体が 客体を 保持する 場合は、 하고を 用いる。
- 6. 教科書により早く習得しうる要素を先に出すという原則に立つならば、 해서と하고の意味を提示する際、「原因・理由」の해서と「並列」の하고を先に提示する:

これらの結果は、既存の韓国語学習者の誤用分析にはなされていなかったいくつかの新たな方法を、本稿で初めて用いることによって得ることができた。

- 1. 本稿は研究対象となる学習者を日本語という同一の母語を持つ者に限定した。
- 2. 学習機関,学習時間,学習者の年齢など類似した学習背景を持つ学習者ごとにグループ化し、その結果を比較することにより、分



【図5】 해서と하고の用法に関する指導の重点

析をより精密なものにした。

- 3. 作文に現れた誤用例のみならず、正用例も含んだ全ての用例を分析の資料とした。
- 4. 正誤の判断においても研究者自身の内省のみに頼るのではなく, 日本語母語話者及び韓国語母語話者による正誤の再確認を行った。
- 5. 作文から収集した用例を正用と誤用という極端的な分類法で分けるのではなく,明確な正用と誤用及び正誤が不明確な用例に分類,ありのままの結果を提示し、学習者が生み出した言語に関する多

様性や実体性を示した。

6. 해서と하고の用例を形態的な側面と意味的な側面で考察し、精密 に定量化することにより、学習者の해서と하고の使用傾向及び具 体的な誤用の類型、習得順序を見出した:

alse arm six	同一の母語を持つ学習者別に分類し、結果を提示
学習者	類似の学習背景を持つ学習者別に分類し、結果を提示
分析資料	誤用のみならず、正用も含んだ全ての用例を分析
正誤判断	学習者の母語及び目標言語の母語話者による正誤の再確認
データの分類	ありのままのデータを提示(明確な正用と誤用,正誤の不明確な用例)
データの分析	形態的な側面や意味的な側面に両方考慮
データの定量化	目的に適した精密な定鼠化

【表18】本稿の誤用分析の方法

以上のように本稿では、自由作文から収集した学習者言語を1つの独特な言語として扱いつつ、日本語を母語とする韓国語学習者による해서と하고の使用の特徴を明らかにしようと試みた。教育面から研究材料をとり、それを研究する、こうした研究の成果は、再び教育に還元され、教材や言語テストをはじめ、多くの面で寄与しうるであろう。

しかし、本稿は様々な学習背景を持つ学習者の特徴を描く出発点にすぎない。本稿で扱ったデータは限られた学習者や資料によるものであり、本稿での結果から考えうる事実を一般化するためには、より豊富で多様な方法によって集められた資料と計量などを含んだ精緻な分析が今後必要となるだろう。

註

- (1) 河野六郎(1955)は、用言と接続形語尾との結合を「接続形」と呼んでいる。本稿でも、同じ概念で「接続形」という術語を用いることにする。また、本稿では、かけで全ての用言を代表させ、一叶付と-卫をとかけが結合した接続形で表すことにする。これ以外の接続形語尾もかけと結合した形を借りて表す。
- (2) 原本には「誤謬」と書かれているが、本稿では「誤用」と統一して記す。

- (4) 日本語母語話者85名,中国語母語話者49名,英語母語話者35名,ロシア 語母語話者41名.その以外の言語を母語としている学習者50名。
- (5) 引き省(2002:89)は主な研究資料は学習者の作文ではあるが、そのうち、 口語資料も約7%程度含まれていると述べている。
- (6) 崔友瑛 (1997), 이은경 (1999), 이정희 (2003) など
- (7) 「言語間の誤用 (interlingual error)」は学習者の母語の影響による誤用を言い、「言語内の誤用 (intralingual error)」は目標言語内のある要素の影響による誤用を言う。
- (8) Ellis (1994:43) は非常に多くの SLA (Second Language Acquisition) の経験的研究が、「言語内の誤り」と「転移による誤り」がどのくらいかを決定することに焦点を置いてきたと指摘しており、その原因は行動主義の L2 習得の習慣形成的説明と心理主義の創造的構築的説明のあい競い合う主張によるものだと述べている。また、同書は行動主義と「転移による誤り」の相関関係対、心理主義と「言語内の誤り」の相関関係という図式はあまりにも単純すぎて誤解を招く恐れがあることに研究者が気づき始めたとする。
- (9) 学習時間は学校での授業の時間も含めたものである。
- (10) 韓国語の授業を週1回受講するか, 週2回受講するかは学習者の専攻ごと に異なる。
- (11) 2002年にA大学の野間秀樹教官の授業と2003年にA大学の伊藤英人教官の授業で課された作文の課題と2003年にB大学の趙義成教官の朝鮮語の授業で課された作文の課題を収集した。作文のテーマとして12個を与え、そのうち、1つを選んで書くようにした:①学校の生活、②韓国の文化、③将来の夢、④最も記憶に残る旅行、⑤最も記憶に残る映画、⑥韓国語の難しい点、⑦自分の長所と短所、⑧最も嬉しかった時及び悲しかった時、⑨自分の家族、⑩夏休みの計画、⑪先生及び韓国語の授業に望むこと、⑫今一番興味を持っていること。作文は全ての誤りに訂正を加え、学習者に返却した。
- (12) 誤用分析における資料の集め方は大きく2つの方法に分けることができる。 学習者が自然な環境で自発的に使用した言語を収集する方法と、何らかの方法 によって引き出された言語を収集する方法である。Ellis (1994:31) は「自然 なサンプルのほうがふつうは好まれる」と述べているが、1年程しか学習経歴 のない学習者から自然で自発的な発話を十分に収集するには現実的に限界があ るため、課題による自由作文を分析することにした。
- (13) 例えば、「この方は私の先生でいらっしゃいます。」という文を「이 분은 제 선생님에서 계십니다.」のように訳す場合である。つまり、日本語の「で」を 韓国語の「에서」に、「いらっしゃいます」を「계십니다」のように前後の意 味関係とは関わりなく、母語と目標言語を 1 対 1 に形態的に対応させる恐れが ある。

- (14) Ellis (1994:31) は Lococo (1976) を引きつつ、自由作文、翻訳、絵を見ての作文によって集められた学習者言語のサンプルのうち、母語の影響を反映している誤用は、翻訳の課題で最も多く見られたと述べている。
- (15) 1人は6年2ヵ月間アメリカに住んだ経験がある学習者であり、もう1人 は18年4ヵ月間フランスに住んでいた学習者である。
- (16) 権在淑 (1994) に倣い,「해서… 剱口」のように「…用言の接続形…用言の終止形」という文がある時,前者の用言を「用言1」,後件の用言を「用言2」と表す。また,用言1で表されることがらを「前件」,用言2で表されることがらを「後件」と呼ぶことにする。
- (17) 日本語母語話者: 1名(女性, 25歳, 東京出身)
- (18) 韓国語母語話者: A (女性, 27歳, 大田出身), B (女性, 35歳, ソウル 出身)
- (19) 金恩愛 (2003:78) は、「あることがらを言語上でいかに表現するかという。表現のありかたの総体」を「表現様相」と定義している。
- (20) 「その他」には下記のような接続形が含まれている。 おお (24例)、 おお고 (23例)、 이라서 (22例)、 하므로 (11例)、 하더니 (10例)、 하는지 (8例)、 이라면 (8例)、 하며 (6例)、 하니 (5例)、 할수록 (4例)、 하거든 (3例)、 하더라도 (3例)、 해야 (3例)、 하게 (3例)、 하도 록 (3例)、 하나 (2例)、 하다가 (2例)、 하든지 (2例)、 하다니 (1例)、 하 자 (1例)、 하자마자 (1例)、 이라든지 (1例)
- (21) 表9は、学習者が해서をいかなる意味として用いているかを分析した結果であるため、その数値には正用例と誤用例が両方含まれている。また、「その他」には、表9に提示されていない意味を表すために해서が用いられた誤用例や韓国語母語話者によるアンケートの答が異なった用例、統辞構造の変化が必要な用例、文自体の意味が不明な用例が含まれている。
- (22) グラフ3は「専攻語学習大学」と「第2外国語学習大学」の作文に見られた前州の総出現頻度に対する数値である。
- (23) 甘기심, 고영근 (1985;1993:394) は、過去形の先語末語尾-知-は해서 とは共起することができないと述べている。
- (24) ただし、下記の例のように他接続形にも修正しうるし、非接続形にも修正が可能な誤用例がある:
 - (例) 저는 그 영화를 봐서 (→보고/본 후) 북한과 한국에 대해서 많이 생각했습니다.

私はその映画を見て北朝鮮と韓国についてたくさん考えました。

本稿では、学習者が実際の用例で接続形を用いた事実を拠り所にし、 呈고 を正しいものと見做す。よって、 해서あるいは하고が他の接続形にも直すこと ができ、 非接続形にも直すことができる場合には、 学習者が実際用いた形態を 優先する。

- (25) 「第2外国語学習大学」からは1回しか作文を収集していないため、標本 数が少ない。
- (26) ①벌써 몇 번이나 봤지만 언제나 한국어 자막을 안 봤어서 영어를 듭니다. ② 그러나 아르바이트나 서클 활동을 했어서 친구가 많게 됐습니다. ③이전 수업에 서 몽골과 선생님 이야기를 들어서 몽골 하고 중국을 잇은 전 차가 있는 것을 알았 어서 절대로 타고 싶다고 생각했어요.
- (27) 서정수 (1996:1192) は、하는데は、後行節で説明や主張などができるよ うに適切な文脈的状況を作ってくれる「状況接続素」であると述べており、이 - 23 (2000: 263) は後件を記述するための適切な背景を先行節に導入する役 割を持っていると記している。本稿は、このような하는데の意味を이은경(2000) における名称を借りて表すことにする。
- (28) 서정수 (1996:1198) は、하니까は、話者の知覚 (perception) のための状 況を設定する役割を持っているとする。また、 甘川심 (1994:128) は、例(34) ような計り引かの意味を「経験」あるいは「発見」の意味と分類しており、権在 |椒(1992:39-40)は「契機」と名づけている。本稿は、権在淑(1992)での 名称を借りる。
- (29) 서정수 (1996:1261-1263) は、해도は、前件によって一般的に予想され る結果とは反対の結果が後件に表れる「譲歩」の意味を持っていると述べてい る。이은경(2000:243)と윤평현(1989:45)もそれと同様である。
- (30) また、1例しか現れなかったが、下記の意味を表すためにも해서が用いら れていた。
 - ①서클 연습중에 비가 오기 시작해서 창문을 닫려고 달려서 (→달려 가다가) 비에 젖은 마루에서 미끄러져 앞의 벽에 부딪쳤다. [中断: 해서→하다가]
 - ② "언어학" "문학" "지역연구" 가 다 있어서 (→있어야) 한구연구가 완 전한 것에 된다고 생각합니다. [必須条件: 해서→해야]
 - ③제 가족은 이렇게 일반적인 가족입니다만 대학에 입학해서 혼자서 살고 있 는 친구들의 이야기를 들어서 (→들으면) 이런 가족을 아주 중요한다고 생각하게 됩니다 「仮定条件:해서→하면」
- (31) 例37以外にも、 か는데が用いられるべきところにか고が用いられた誤用例 は以下のようなものがある:
 - ①그 대학교는 고등학생 였을 때 견학했고 (→견학했는데) 분위기가 아무 마음에 들었어요.
 - ②이 여행은 MT 라고 하는 것이고 (→것인데) 한국가정에 호음스테이를 하 거나 한국외국어대학의 합숙소에 묵거나 했습니다.
 - ③라크로스는 제가 대학교에 입학해서 시작한 것이고 (→시작한 것인데). 그때까지 그런 말도 몰랐어요.

- (32) 権在淑(1994:42)は命令・禁止などといったことがらについて「話し手と聞き手双方の意志に関わることがら、即ち話し手と聞き手の意思で左右できることがら」と定義している。なお、이은경(2000:280)も意志的なムードを表す全ての文、すなわち、約束・承諾・命令・勧誘などの文では하니까以外の原因を表す接続形は用いることができないと指摘している。
- (33) 浜之上幸(1991:22) 参照
- (34) 権在淑 (1994) は、 가다、오다、나가다、나오다などのように가다・오다 を含む動詞のうち、 具体的な移動の動作を表す動詞を移動動詞と呼んでいる。
- (35) 例颐の場合,「나이를 먹어서」を「나이가 들어서」のように単語結合を変えれば、 해서を用いることができるが、学習者が書いた用言を優先して誤用と 分類した。
- (36) Duly, H, et al. (1982:200-201) は、長い間多くの研究者は、学習者は教育者が教える順序に沿って文型を習得していくと思っていたが、数多くの文型練習や誤用の修正を重ねても学習者は同一の誤用を繰り返すことを発見し、第2言語学習にはある文法形式が他のものより、先に習得されうる決まった自然な習得順序が存在しうることを発見したと述べている。また、同書は自然な習得順序に逆らい、習得順序が遅い文法形式を先に教えても、その文法形式の適切な習得時期が来るまでは習得されにくいとしている。
- (37) グラフ6とグラフ7は해서の総出現頻度に対する比率である。また、これには1つ以上の誤用の類型にまたがる用例も含まれている。
- (38) 作文に現れた해서の意味別の正誤数及び正誤率 (%)

区分		5	た行	1	兼態	Į.	原因	=	手段	ś	条件:	ž	並列	F	司時	そ	の他	計
	正	18	75.0%	2	28.6%	158	89.8%	14	100%	7	100%	0	0%	0	0%	0	0%	197
専攻語	誤	6	25.0%	5	71.4%	18	10.2%	0	0%	0	0%	7	100%	5	100%	20	100%	61
	計	24	100%	7	100%	176	100%	14	100%	7	100%	7	100%	5	100%	20	100%	258
	Œ	30	88.2%	1	20.0%	109	90.8%	12	100%	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	162
専攻語 []	誤	4	11.8%	4	80.0%	11	9.2%	0	0%	0	0%	8	100%	8	100%	10	100%	45
-	計	34	100%	5	100%	120	100%	12	100%	10	100%	8	100%	8	100%	10	100%	207
[Œ.	5	100%	0	0%	30	78.9%	7	100%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	45
第 2 外国語	誤	0	0%	0	0%	8	21:1%	0	0%	0	0%	6	100%	3	100%	2	100%	19
71	計	5	100%	0	0%	38	100%	7	100%	3	100%	6	100%	3	100%	2	100%	64
	Œ	53	84.1%	3	25.0%	297	88.9%	33	100%	20	100%	0	0%	0	0%	0	0%	404
計	誤	10	15.9%	9	75.0%	37	11.1%	0	0%	0	0%	21	100%	16	100%	32	100%	125
	計	63	100%	12	100%	334	100%	33	100%	20	100%	21	100%	16	100%	32	100%	529

[◎]正誤率は해서の各意味別の出現頻度に対するものである。「その他」には、表に提示されていない他の意味を表すために해서が用いられた用例や異なる意味を持つ、2つ以上の接続形に直しうる誤用例が含まれている。 ②背景が黒くなっている部分は、誤用率が低い해서の意味を示す。

(39) 作文に現れた하고の意味別の正誤数及び正誤率 (%)

区分		3	も行	ħ	態	D	原因		戶段	3	种	Š	克列	ŗ	司時	そ	の他	31
	Œ	7	41.2%	17	100%	4	15.4%	0	0%	3	75.0%	88	100%	2	22.2%	0	0%	121
専攻語 I	誤	10	58.8%	0	0%	22	84.6%	6	100%	1	25.0%	0	0%	7	77.8%	11	100%	57
	計	17	100%	17	100%	26	100%	6	100%	4	100%	88	100%	9	100%	11	100%	178
	Œ	8	42.1%	7	100%	6	23.1%	0	0%	0	0%	124	100%	6	54.5%	o	0%	151
専攻語	鰕	11	57.9%	0	0%	20	76.9%	1	100%	1	100%	0	. 0%	5	45.5%	6	100%	44
	計	19	100%	7	100%	26	100%	1	100%	1	100%	124	100%	11	100%	6	100%	195
	Œ	6	50%	2	100%	1	10.0%	0	0%	2	66.7%	40	100%	2	50%	0	0%	53
第 2 外国語	誤	6	50%	0	0%	9	90.0%	5	100%	1	33.3%	0	0%	2	50%	3	100%	26
	計	12	100%	2	100%	10	100%	5	100%	3	100%	40	100%	4	100%	3	100%	79
	Œ	21	43.8%	26	100%	11	17.7%	0	0%	5	62.5%	252	100%	10	41.7%	0	0%	325
計	誤	27	56.3%	0	0%	51	82.3%	12	100%	3	37.5%	0	0%	14	58.3%	20	100%	127
	計	48	100%	26	100%	62	100%	12	100%	8	100%	252	100%	24	100%	20	100%	452

◎正潔率は計立の各意味別の出現頻度に対するものである。「その他」には、表に提示されていない他の意味を表すために計立が用いられた用例や異なる意味を持つ、2つ以上の接続形に直しうる誤用例が含まれている。 ®背最が退くなっている部分は、誤用率が低い計立の意味を示す。

参考文献

1 韓国語で書かれた文献

권재일 (1994) "한국어 문법의 연구"서울 : 서광 학술 자료사

김미옥 (1994) '한국어 학습에 나타난 오류 분석' "한국말 교육 (Korean Language Education)" Vol. 5, 서울 : 한국문화사

김수정 (2003) "한국어 문법 교육을 위한 연결 어미 연구"서울대학교 대학원 박 사학위논문

김중섭 (2002) '한국어 학습자의 연결어미 오류 양상에 관한 연구' "한국어 교육" 제 13권 2호, 서울: 국제한국어교육학회

남기심, 고영근 (1985; 1993) "표준국어문법론" 서울: 탑출판사

남기심 (1994) "국어 연결어미의 쓰임"서울 : 서광학술자료사

남기심 (1996) "국어 문법의 탐구 I ----국어 통사론의 문제---" 서울 : 태학사

남윤진 (1997) "현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구"서울대학교 대학원 박사학위논문

노마히데키 (2002) "한국어 어휘와 문법의 삿과구조" 서울: 태학사

閔子 (2001) '오류 분석을 통한 효율적인 한국어 지도 방안 연구——초급 단계 중 국인 학습자들의 작문에 나타나는 오류를 중심으로——'서울:서울 대학교 대학원 석사학위논문

- 박숭윤 (1988) '국어의 조건문에 관하여' "언어"제13권제 I 호. 서울 : 한국언 어학회
- 백봉자 (1999) "외국어로서의 한국어문법사전"서울: 연세대학교 출판부
- 서정수 (1990) "국어 문법의 연구Ⅱ" 서울 : 한국문화사
- 서정수 (1994) '국어의 종속 접속문에 대하여' "한국말 교육 (Korean Language Education)" Vol. 5. 서울 : 한국문화사
- 서정수 (1996) "국어문법"서울 : 한양대학교 출판원
- 싯타니 탐마차이 (2001) '한국어쓰기지도에 관한 연구──태국어 학습자의 오류를 중심으로──'서울대학교 대학원 석사논문서울 : 서울대학교
- 연세대학교 언어정보개발원 편 (1998) "연세한국어사전" 서울: 두산동아
- 유향란 (1996) '중학생 문장에 나타난 오류 실태 분석——중학교 2 학년생의 글을 중심으로——'연세대학교 교육대학원 석사논문 서울 : 연세대학 교 교육대학원
- 윤평현 (1989) "국어의 접속어미 연구——의미론적 기능을 중심으로——"서울: 한신문화사
- 이광호 (1980) '접속어미 '-면'의의미기능과그 상관성' "언어"제 5 권제 2 호. 서울: 한국언어학회
- 이은경 (1999) '한국어 학습자의 조사 사용에 나타난 오류 분석——한국어 학습자의 작문을 중심 으로——' 연세대학교 대학원 석사학위논문 서울 : 연세대학교
- 이은경 (2000) "국어의 연결 어미 연구" 서울 : 태학사
- 李翊燮、任洪彬(1983)"國語文法論"서울:學研社
- 이정희 (2003) "한국어 학습자의 오류 연구"서울 : 박이정
- 이카라시고이치 (2000) '연결어미와 종결어미의 호응관계에 대하여—— {-(으) 니까}를 중심으로——'"형태론"서울 : 박이정
- ITO Hideto (1997) "일본 정주 Korean 중 총련계 민족학교 출신자를 중심으로 한 사회에서 사용되는 조선어에 관한 연구의 필요성에 대하여"국제 대회 중앙아세아 조선인의 역사, 문화, 언어 발표자료, 1997.7.20, Akademija nauk, Almaty
- 이효정 (2001) '한국어 학습자 담화에 나타난 연결어미 연구' "한국어 교육"제 12권 I호 서울 : 국제한국어교육학회
- 채완. 이익섭 (1999) "국어문법론강의"서울: 學硏社
- 崔友瑛 (1997) '외국어로서의 한국어 학습자의 오류에 대한 연구——작문에 나타 난 오류를 중심으로——'이화여자대학교 대학원 석사학위논문 서 울:이화여자대학교
- 최정화 (1999) '한국어 교수에 있어서 일본어권 학습자의 오류 분석' 한국외국어

대 학교 대학원 석사학위논문 서울 : 한국어외국어대학교

2. 日本語で書かれた文献

- 家村伸子(1998)「日本語否定疑問文の対応に関わる中間言語研究」『日本語教育』 81号、東京:日本語教育学会
- 五十嵐孔一(1997)「「原因・理由」を表す接続形 "-(아/어)서"と "-(으)니办" について――従属節の包含構造を中心にして――」『朝鮮学 報』第162輯 天理:朝鮮学会
- 伊藤英人(1989)「在日朝鮮人によって使用される朝鮮語の研究の必要性について」井上史雄編・発行『日本の多言語使用についての実態調査』: 私家版
- 稲葉みどり(1991)「日本語条件文の意味領域と中間言語構造——英語話者の第 二言語習得過程を中心に——」『日本語教育』75号 東京:日 本語教育学会
- 今尾ゆき子(1991)「カラ,ノデ,タメ――その選択条件をめぐって――」『日本 語学』12. 東京:明治書院
- 内山政春 (1999)「現代朝鮮語の接続形-어서と-고について」『朝鮮学報』第162 輯 朝鮮学会
- 大喜多喜夫 (2000) 『英語教育のための応用言語学――ことばはどのように学習されるか――』京都:昭和堂
- 大島弥生 (1993)「中国語・韓国語話者における日本語のモダリティ習得に関する 研究」『日本語教育』81号 東京:日本語教育学会
- 生越直樹 (1987) 「日本語の接続助詞「て」と朝鮮語の連結語尾 {a} {ko}」『日本語教育』62号 東京:日本語教育学会
- 生越直樹 (1991)「韓国人日本語学習者のテンス・アスペクトに関する誤用について」『現代日本語のテンス・アスペクト・ウォイスについての総合的研究』科学研究費報告書
- 生越直樹・曺喜澈(2000)『ことばの架け橋』東京:白帝社
- 小篠敏明編(1983)『英語の誤答分析』東京:大修館書店
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京: 三省党
- 菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』東京:白水社
- 菅野裕臣(1995)「朝鮮語語彙のクラスをめぐって」『朝鮮文化研究』第 2 輯、東京:東京大学朝鮮文化研究施設
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(Verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯、天理: 朝鮮学会

権在淑 (1992)「現代朝鮮語の用言の接続形-니까について」『Lingua』第3号, 上智大学一般外国語東京:日本語教育学会

権在淑(1994)「現代朝鮮語の接続形Ⅲ-서について」『朝鮮学報』第152輯. 天理:朝鮮学会

権在淑(1995)『表現が広がるこれからの朝鮮語』東京:三修社

言語学研究会編(1986)『ことばの科学2』東京:むぎ書房

河野六郎(1955)「朝鮮語」『世界言語概説下券』東京:研究社

坂本正 (1993)「英語話者における「「て」」形成規則の習得について」『日本語教育』 80号. 東京:日本語教育学会

迫田久美子(1998)『中間言語研究――日本語学習者による指示詞コ・ソ・アの 習得――』広島: 溪水社

渋谷勝己(1988)「中間言語研究の現状」『日本語教育』64号. 東京:日本語教育 学会

鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』東京:むぎ書房

鄭玄淑(1996)「現代朝鮮語の接続形-고について――その意味・用法をめぐって ----」『朝鮮学報』第161輯 天理:朝鮮学会

鄭玄淑(2001)「I-コ、Ⅲ-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性――アスペクト形式による用言分類を通して――」『朝鮮学報』第180輯. 天理:朝鮮学会

寺田裕子(1993)「中間言語とは何か――先行文献からの再考」『日本語教育』81 号、東京:日本語教育学会

寺村秀夫 (1998) 『日本語の文法(下)』 東京: 国立国語研究ところ

長友和彦(1993)「日本語の中間言語研究——概観」『日本語教育』81号 東京: 日本語教育学会

日本語教育学会編(1982)『日本語教育事典』東京:大修館書店

野間秀樹 (2000; 2002)『至福の朝鮮語』東京:朝日出版社

蓮沼昭子、有田節子、前田直子(2001)『条件表現』東京:くろしお出版

浜之上幸(1991)「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』第138輯. 天理:朝鮮学会

飛田良文・佐藤武義編(2002)『現代日本語講座 第5巻 文法』東京:明治書院 丸山圭三郎編(1985)『ソシュール小事典』東京:大修館書店

吉川武時(1978)「誤用例による研究の意義と方法」『日本語教育』34号 東京: 日本語教育学会

吉川武時(1989)『日本語文法入門』東京:アルク

吉田妙子(1994)「台湾人学習者における「て」形接続の誤用例分析」『日本語教育』84号,東京:日本語教育学会

3. 英語で書かれた文献

Brown, H. D. (2000) Principles of Language Learning and Teaching NewYork: Longman Corder, S. P. (1981) Error Analysis and Interlanguage Oxford: Oxford University Press Dulay, H., Burt, M. & Krashen, S. (1982) Language Two Oxford: Oxford University Press Ellis, R. (1994) The Study of Second Language Acquisition Oxford: Oxford University Press (金子朝子訳 (1996)『第二言語習得序説——学習者言語の研究——』東京:研究社出版)

Ellis, R. (1997) Second Language Acquisition Oxford: Oxford University Press (牧野高吉訳 (2003)『第 2 言語習得のメカニズム』東京: 筑摩書房)

Seliger, H. W. & Shohamy, E. (1989) Second Language Research Methoods Oxford:
Oxford University Press (土屋武久, 森田彰, 星 美李, 狩野紀子訳 (2001)『外国語教育リサー チマニュアル』東京: 大修館書店)

【謝辞】本稿をまとめるにあたり、野間秀樹先生をはじめ、伊藤英人、南潤珍、五十嵐孔一、趙義成の諸先生方に多くのご指導と励ましをいただいた。なお、東京外国語大学の朝鮮語専攻の皆様にも多くの貴重なご指摘をいただいた。皆様及び心の支えになった夫にも、この場を借りて心から感謝申しあげたい。

(4 Atkinson Place St., Albert, Alberta Canada T8N5P2)

(64) 朝 鮮 学 報 (第195輯)

付録:学習者の作文に現われた해서と하고の用言の出現数

m.~*	N.		先行			様態		原	Į. Į	此由		並列			同時			不		
用言数	ex.	iF.	誤	냶.	iF.	訳	計	Œ	靐	計	Æ	誤	計	ıE.	誤	at-	iΕ	誤	āt	明
하다	81	ī	3	4	3	0	3	18	3	21	20	3	23	1	7	8	7	7	14	8
이다	78	0	0	0	0	0	0	24	-11	35	34	0	34	0	0	0	0	6	6	3
있다	67	0	1	1	0	0	0	32	8	40	14	1	15	0	1	ī	0	4	4	6
가다	42	16	- 11	27	0	0	0	5	0	5	5	0	5	1	0	ī	ī	1	2	2
보다	36	3	3	6	0	1	1	- 8	2	10	6	1	7	3	5	8	0	1	1	3
많다	30	0	0	0	0	0	0	15	4	19	7	Ī	8	0	0	0	0	1	1	2
없다	28	0	0	0	0	0	0	10	4	14	6	4	10	0	0	0	0	4	4	0
좋아하다	21	0	0	0	0	0	0	-11	5	16	2	0	2	0	0	0	0	2	2	- 1
듣다	20	3	1	4	- 1	0	1	1	3	4	4	0	4	0	2	2	0	2	2	3
되다	19	0	3	3	0	0	0	7	2	9	2	0	2	0	0	0	ı	0	1	4
바쁘다	18	0	0	0	0	0	0	14	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
생각하다	17	ì	0	_	_	0	1	4	4	8	6	0	6	0	0	0	0	1	1	0
좋다	17	0	0	0	0	0	0	6	3	9	5	1	6	0	0	0	0	ı	1	1
알다	13	0	0	0	0	0	0	2	3	5	3	1	4	0	0	0	0	0	0	4
만나다	12	5	3	8	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
공부하다	11	0	0	0	0	0	0	6	2	8	0	0	0	0	0	0	1	I	2	1
아니다	11	0	0	0	0	0	0	1	- 1	2	8	0	8	0	0	0	0	0	0	1
타다	11	0	0	0	3	6	9	ı	0	1	0	0	0	0	0	_ 0	0	0	0	1
돌다	10	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	6	1	7	0
입학하다	10	6	1	7	0	0	0	- 1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
다르다	9	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1.	0	0	0	0	4	4	2
돌아가다	9	7	0	7	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
만들다	9	1	0	ı	0	0	0	2	1	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	2
오다	9	0	0	0	0	0	0	- 1	2	3	2	0	_ 2	0	0	0	- 1	1	2	2
잘하다	9	0	0	0	0	0	0	5	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
말하다	8	1	0	- 1	1	0	1	3	0	3	2	0	2	0	0	0		0	l	0
배우다	8	1	1	2	0	0	0	1	0	- 1	4	0	4	0	0	0	0	j	1	0
시작하다	8	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2
받다	7	0	0	0	0	0	0	- 1	2	_ 3	1	0	- 1	0	1	- 1	0	0	0	2
살다	7	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	3	0	0	0	0	_	- 1	0
_ 먹다	6	0	0	0	0	0	0	2	0	2	_ 3	0	3	0	0	0	0	1	1	0
보이다	6	0	0	0	0	0	0	3	0	3	2	ı	3	0	0	0	0	0	0	0
통하다	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6	0
가지다	5	0	0	0	4	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
모르다	5	0	0	0	0	0	0	4	0	4	- 1	0	- 1	0	0	0	0	0	0	0
어렵다	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	!	5	0	0	0	0	0	0	0
익숙하다	5	0	0	0	0	0	0	4	0	4	1	0	- 1	0	0	0	0	0	0	0
재미있다	5	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	I	0	0	0	0	1	ı	1
その他	399	28	10	38	16	2	18	100	22	122	101	7	108	5	14	19	35	22	57	37
#f	1077	74	37	111	29	9	38	308	88	396	252	21	273	10	30	40	58	67	125	94

^{•「}不明」は正誤の判断が決めにくい用例を示す。